

2026

2026 科目ガイド

【1部3年制写真科】

フォトアートゼミ



日本写真芸術専門学校

2026

区分

必修

対象

I部3年制3年
フォトフィールドワークゼミ

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	<p>卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。</p> <p>また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		/
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ
評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価		
テキスト	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。		

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	現代写真論			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	鳥原 学			
授業概要	<p>写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につけません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見る。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして「教養としての写真全史（筑摩選書）」を使用します。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)	
	2		カメラの楽しみを知る(三葉堂写真機店)	
	3		イントロダクション「カメラとこの社会」	
	4		ポートレート「写真の社会的役割」	
	5		ポートレート「理想と現実」	
	6		スナップショット「手軽な写真」	
	7		スナップショット「“決定的瞬間”以降」	
	8		ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」	
	9		報道とドキュメント 1「記録と宣伝」	
	10		報道とドキュメント 2「印刷メディアとジャーナリズム」	
	11		ワークショップ(写真集の見方の指南)	
	12		報道とドキュメント 3「フォトジャーナリストの主体化」	
	13		広告写真 1「消費社会の原動力」	
	14		広告写真 2「産業化と社会へのメッセージ」	
	15		広告写真 3「音楽産業の拡大と写真の影響」	
後期	1		芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」	
	2		芸術と写真②「ストレイトフォト」	
	3		写真展観覧	
	4		芸術と写真③「アヴァンギャルド」	
	5		芸術と写真④「日本の「芸術写真」	
	6		芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」	
	7		芸術と写真⑥「現代写真の性質」	
	8		ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」	
	9		ファッションと写真②「多様性の受容」	
	10		写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」	
	11		写真と身体表現②「ヌードの変化」	
	12		写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐる」	
	13		ワークショップ(プリントスタディ)	
	14		自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」	
	15		自然と写真②「生態観察と文化人類学的視点」	
評価方法	<p>授業アンケートの質および期末レポート課題、ならびに出席回数を厳守とします。 注意：アンケートや課題に不正（Webからのコピー&ペースト、他人による作成など）が発覚した場合、出席回数にかかわらず落第とします。</p>			
テキスト	教養としての写真全史（筑摩選書）必須。各自購入すること。			

フォトアートゼミ

2026

区分	選択必修	対象	I部3年制1年 フォトアートゼミ
----	------	----	---------------------

科目名	メディア論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	関 貴尚		
授業概要	<p>本授業では、「メディア」について考えます。 メディアというと、マスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものですが、情報を伝達する際に空気のようにまとわりつき、切り離すことができない要素もまたメディアです。そのメディアがどのようなものなのかを理解し、それによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのかを考察します。そのため本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど）の視点から読み解きます。なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を用いて、授業中に質問やコメントを募集する場合があります。</p> <p>本講義を履修することにより、以下の能力の修得を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディア特性を理解し、自らの制作に活かす。 2. メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）
	2	講義	ファッションとメディア1
	3	講義	ファッションとメディア2
	4	講義	アイドルとメディア1
	5	講義	アイドルとメディア2
	6	講義	SNSというメディア
	7	講義	戦争とメディア1
	8	講義	戦争とメディア2
	9	講義	メディアと技術革新
	10	講義	死とメディア
	11	講義	映画『ドントルックアップ』から考える
	12	講義	音楽とメディア
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する
	14		
	15		
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）
	2	講義	政治とメディア1
	3	講義	政治とメディア2
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『1984年』から考える
	5	講義	スポーツとメディア1
	6	講義	スポーツとメディア2
	7	講義	ファンとメディア
	8	講義	恋愛とメディア
	9	講義	メディアと情動
	10	講義	アニメとメディア
	11	講義	アートとメディア1
	12	講義	アートとメディア2
	13	講義	差別とメディア
	14	講義	ジェンダーとメディア
	15	授業内課題	メディアに支配されないために
評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられま		
テキスト			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	スタジオ演習			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	林 憲治			
授業概要	全ての写真は光と影で写ります。その光と影を自由にコントロールすることで自らの写真撮影に繋がり思い通りの表現が出来るようになります。この授業ではカメラの使い方は勿論のこと光源の大きさや方向で写り方が変化することを基本的にスタジオ内で学びます。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	カメラについて	デジタルカメラの使い方、フィルムカメラの種類と概要	
	2	光について	光源の大きさと光源の位置変化の違い	
	3	露出計について	光をコントロールするために必要な露出計の使い方	
	4	大型ストロボ	取り扱い方法	
	5	大型ストロボ	各自のデジタルカメラで撮影	
	6	中判デジタルカメラ	人物撮影 1灯使用	
	7	中判デジタルカメラ	人物撮影 2灯使用	
	8	4X5カメラ	アオリ等を含めた使い方の説明	
	9	調整日		
	10	調整日		
	11	デジタルカメラ	クリップオンストロボの使い方	
	12	デジタルカメラ	カメラを撮影	
	13	デジタルカメラ	カメラを撮影	
	14	パソコン	パソコンで画像処理	
	15	予備日		
後期	1	デジタルカメラ	各自好きな物を撮影	
	2	デジタルカメラ	黒デコラ板を使って撮影	
	3	デジタルカメラ	黒デコラ板を使って撮影	
	4	デジタルカメラ	水のペットボトルを撮影	
	5	デジタルカメラ	水のペットボトルを撮影	
	6	デジタルカメラ	ガラスの撮影	
	7	デジタルカメラ	ガラスの撮影	
	8	デジタルカメラ	人物撮影 バストアップ	
	9	デジタルカメラ	パソコンで画像処理	
	10	デジタルカメラ	人物撮影 全身	
	11	デジタルカメラ	モデルの撮影	
	12	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する	
	13	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する	
	14	デジタルカメラ	見本からライティングを読み出して再現する	
	15	予備日		
評価方法	出席状況、課題、授業態度等			
テキスト				

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	写真表現演習 I			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	倉持 正実			
授業概要	<p>写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で視た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。</p> <p>写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観ることで。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で憶えましょう。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表	
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評	
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評	
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）	
	5	撮影実習	課題2 屋外撮影を実施	
	6	撮影実習	課題2 屋外撮影を実施	
	7	全体講評	課題2	
	8	全体講評	課題2	
	9	講義	構図について/組み写真について	
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表	
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成	
	12	中間講評	課題3『我が町』	
	13	全体講評	課題3のまとめ	
	14	中間講評	前期末中間審査	
	15	中間講評	前期末中間審査	
後期	1	講義	/課題4発表	
	2	中間講評	課題4	
	3	中間講評	課題4	
	4	全体講評	課題4のまとめ	
	5	撮影実習	課題5 『〇〇一日』屋外撮影を実施	
	6	撮影実習	課題5 『〇〇一日』屋外撮影を実施	
	7	全体講評	課題5の合評	
	8	全体講評	課題5の合評	
	9	講義	/課題6発表	
	10	中間講評	課題6	
	11	中間講評	課題6	
	12	全体講評	課題6のまとめ	
	13	中間講評	進級審査課題中間審査	
	14	中間講評	進級審査課題中間審査	
	15	まとめ	進級審査について	
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない）			
テキスト	図書館の写真集等			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	写真表現演習Ⅱ			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	奥 初起			
授業概要	<p>この授業は、みなさんのクリエイティビティを高めながら作品を制作していきます。年間で四つの課題に対してポートフォリオ（自作の作品集）を制作します。お題は決まっていますが、それぞれの被写体や表現方法はディスカッションを行いながら決めていきます。</p> <p>また、様々な表現方法をインプットしていくための実習も行います。カメラマン、フォトグラファー、作家など呼び方はたくさんありますが、共通して必要なことはそれぞれのクリエイティビティです。そして、それを形にしていくための技術と知識だと私は考えています。皆さんが専門的に学んだ（もしくはこれから学ぶ）ことを活かして作品制作を行っていきましょう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の作品を制作し、まとめる力を身につける。 			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	作品検討	現在までに各自が撮影した写真を持ち寄ったディスカッション/GW課題解説	
	2	講義/実習	GW課題講評/課題①解説/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク	
	3	講義/講評	様々な表現方法を知る/課題①作品講評	
	4	作品講評	課題①作品講評	
	5	講評/講義	課題①作品講評/様々な写真集を見る	
	6	作品講評	課題①作品講評	
	7	実習	大判カメラ、中判デジタルカメラを使った撮影	
	8	作品講評	課題①作品講評	
	9	作品講評	課題①作品講評	
	10	実習	Photoshopレタッチ/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク	
	11	作品講評	課題①作品講評	
	12	作品講評	課題①ポートフォリオ提出/講評/課題②「旅」説明	
	13	作品講評	課題②ポートフォリオ提出、講評、課題③「新しい場所」解説	
	14	講義/講評	様々な表現方法を知る/作品講評	
	15	講義/講評	様々な表現方法を知る/前期まとめ	
後期	1	講義/講評	様々な写真集を見る/作品講評	
	2	実習/講評	フィルターワークの実習/作品講評	
	3	作品講評	課題③作品講評	
	4	作品講評	課題③作品講評	
	5	作品講評	課題③作品講評	
	6	作品講評	課題③作品講評	
	7	作品講評	課題③作品講評	
	8	作品講評	課題③作品講評	
	9	作品講評	課題③作品講評、課題④「自由」解説	
	10	講評/講義	課題③作品講評	
	11	作品講評	課題③ポートフォリオ提出、講評	
	12	作品講評	課題④作品講評	
	13	作品講評	課題④作品講評	
	14	作品講評	課題④作品講評	
	15	作品講評	課題④ポートフォリオ提出、講評	
評価方法	出席回数、課題の提出頻度、課題内容			
テキスト				

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	画像処理 I			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	芳田 賢明			
授業概要	<p>業界標準の画像処理ソフトウェアであるAdobe Photoshopを主に用い、写真家・フォトグラファーとして必要な、RAW現像～レタッチ～インクジェットプリントの基本を学びます。</p> <p>撮影データを自らプリントして仕上げていく作業を繰り返し行う中で、画像処理による画づくりの基本的な知識と技術の習得を目指します。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を、RAW現像～レタッチ～プリントして仕上げる 画像処理による画づくりの基本的な知識と技術を習得する 期末審査で思い通りのプリントを提出できるようにする 根拠のある画づくりができ、それを説明できるようにする 			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	写真制作の概要を把握する	講義：ワークフロー、写真制作・画像処理の考え方 演習：Mac、Bridge、Photoshopの基本操作	
	2	作業環境を整える	講義：作業環境、機材の選び方、モニターのキャリブレーション、カラー設定、データの管理、レイヤー 演習：写真のセレクト、ゴミ消し、レイヤーの基本	
	3	プリントの概要を把握する	講義：RAW現像やレタッチを考慮した撮影、プリンターについて、用紙について、プリントの流れ 演習：プリントしてみる	
	4	デジタル画像を理解する	講義・演習：RAW撮影とJPEG撮影の違い、圧縮、保存形式、画像の仕組み（解像度・ピクセル深度）、階調、ヒストグラム	
	5	RAW現像に慣れ、画づくりを理解する	講義：RAW現像の基本、RAW現像とレタッチの違い、色味・調子・質感でつくる印象、記憶色・忠実色、評価 演習：RAW現像に慣れる	
	6		講義：画像処理とプリント用紙、評価・設計・調整のサイクル 演習：自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する	
	7		演習：自己作品でRAW現像～プリントをする	
	8	色調補整に慣れる	講義：加法混色・減法混色、色相・彩度・明度、トーンカーブ、色調補整の基本、調整レイヤー 演習：色調補整に慣れる	
	9		演習：自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする	
	10	選択範囲に慣れる	講義：視線のコントロール、選択範囲の取り方・使いどころ 演習：選択操作に慣れる	
	11		演習：選択範囲も使い、自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする	
	12	作品を仕上げる	講義：複数枚の画づくり 演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）	
	13		演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）	
	14	質問・おさらい	講義・演習：コンタクトシート、質問内容に応じて	
	15	テスト	テスト：習得度の確認	
後期	1	カラーマネジメントを理解する	講義：カラーマネジメントシステムの考え方、仕組み、実践、ワークフローへの応用、観察光源	
	2	表現を深める	講義：いろいろなRAW現像ソフト 演習：Lightroomの基本操作、ペンタブレットの使い方、ペンタブレットに慣れる	
	3		講義：RAW現像の基本補正以外の活用、モノクロ表現、フィルターの活用、プリント入稿データの作成 演習：実践	
	4		演習：自己作品を仕上げる	
	5	演習：自己作品を仕上げる		
	6	ポートレートのレタッチ	講義：肌レタッチの考え方 演習：肌レタッチの実践	
	7		演習：自己作品を仕上げる	
	8	画像合成の実践	講義：画像合成の考え方 演習：基本的な合成作業（同ポジションの合成、切り抜き合成、はめこみ合成）	
	9		演習：自己作品を仕上げる	
	10	画づくりを分析する	演習：好きな写真家の画づくりを分析・真似てみる	
	11	画像・プリントのみきわめ	講義：画像やプリントの不良・劣化のみきわめ 演習：仕上げ実践	
	12	作品を仕上げる	演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）	
	13		演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）	
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて	
	15	テスト	テスト：習得度の確認	
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組み、作品の完成度を加味して評価します。			
テキスト				

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	フォトプレゼンテーション演習 I			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	フジモリメグミ			
授業概要	この授業では、フォトプレゼンテーション（写真の編集や展示など、作品を見せる方法）についての基礎的な知識を身につけることを目指します。年間を通して多くの展示会に足を運び、実際の会場で展示を見学していきます。展示方法やプリントされた紙の違いによって、作品から受ける印象が変わることを理解できるようにしましょう。また、様式研究や額装・パネル張りなどの実習もあわせて行います。8階ウォールギャラリーや校内壁面での展示を通して、意図を正確に伝える効果的なプレゼンテーションを学びましょう。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	ガイダンス/授業説明/自己紹介	
	2	実習制作	フォトスクラップの制作 持ち物-ノート・雑誌や新聞（スクラップに使用できそうな素材）・のり・はさみ/カッター	
	3	課題発表	フォトスクラップ発表・展示準備 各自5分程度の発表を想定して準備してきてください	
	4	展示作業	フォトスクラップの展示作業	
	5	実習制作	レクチャー・マットカッターの使い方	
	6	↓	・抜き寸の計算方法 ・額装の基本的な知識	
	7	展示見学	様々な展示方法を学ぶ 対象の展示会を見学①	
	8	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ②	
	9	講評	課題①	
	10	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ③	
	11	講評	課題①	
	12	実習	額装した作品をつかって釘打ちの実習	
	13	↓	額装した作品をつかって釘打ちの実習	
	14	実習制作	紙の種類によって見え方の変わるプリント・比較	
	15	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ④	
後期	1	発表	それぞれのレポートの発表 / ディスカッション	
	2	実習	水張りの方法 ※各自木製パネルとスプレ-のりを準備してください	
	3	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑤	
	4	講評	課題②	
	5	実習制作	作品のpdf化について webで作品を展示する	
	6	展示見学	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑥	
	7	講評	課題②	
	8	講評	写真表現演習Ⅱの授業で制作した作品をもとに展示プラン等の考察	
	9	講評	展示プランの作成・発表	
	10	実習	展示模型の作成	
	11	講評	展示模型の作成・発表・投票	
	12	実習	"写真表現演習Ⅱ"の授業で制作した作品をweb上で発表する	
	13	講評	選考会・まとめ	
	14	実習	展示会の準備	
	15	実習	展示会の準備	
評価方法	出席率/授業態度/写真への愛情			
テキスト	必要な物は事前に連絡します。忘れ物はしないようにしましょう			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年 フォトアートゼミ
------	----	----	----	---------------------

科目名	ムービー制作演習 I			
開講期	前後期		単位数	4
講師名	小島 真也			
授業概要	<p>ムービーや映像ではなく「動画」と言われ、誰もが撮影や編集を行い、観ることも日常となった現在、写真家にもスチルばかりではなく、動画（映像）の技術と感性が強く求められている。 写真と動画では、コンテンツを制作するうえで多くの違いがある。 本講座では、タイプの異なる3つのコンテンツを制作することで、動画の撮影技術と編集方法を学び、写真の感性を持ち合わせたハイブリッドな映像表現者としての第一歩を踏み出すことを目的とする。</p> <p>1 ワンカット動画（YouTube系） 2 インタビュー動画（TV番組系） 3 プロモーション動画（広告映像系） ※提出された作品は、エレベーター前の大型モニターで上映予定</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概論	動画制作の流れと動画の基礎知識を学ぶ	
	2	ランダムMV	民生ビデオカメラで撮影し、講師の編集を見て映像編集の流れを知る	
	3	撮影基礎演習 ワンカットPR動画 (スマホ)	ワンカット動画を制作するための準備をする（撮影内容と構成）	
	4		撮影：スマホでワンカット撮影をする（学内、近隣にて）	
	5		編集：スマホの動画編集アプリで編集し課題として提出	
	6		講評：全員の課題を順次視聴して講評する	
	7		写真には無い「カットを割る」という手法を学ぶ（撮影内容と構成）	
	8	撮影基礎演習 カット割り (スマホ)	撮影：カットを割って撮影する（学内、近隣にて）	
	9		編集：スマホの動画編集アプリで編集し課題として提出	
	10	インタビュー動画 3~4人のグループ (ミラーレス機)	撮影準備：収録の役割分担とインタビュー内容（質問）を準備する	
	11		撮影①：カメラ設定とラベリアマイクについて学ぶ	
	12		撮影②：インタビューを収録する（学内にて）	
	13		編集①：Premiere Proのデータ管理と基本操作を学ぶ	
	14		編集②：Premiere Proの基本操作の続き	
	15		編集③：インタビュー動画を各自で編集し課題として提出する	
後期	1	撮影技術	つながる画を撮る①：ポジション&アングル、撮影サイズ、三脚など	
	2		つながる画を撮る②：各種のカメラワークについて	
	3		つながる画を撮る③：イマジナリーライン、20%&30度ルールなど	
	4		つながる画を撮る④：七五三の法則、作文的撮影法など	
	5	録音技術	音声録音：マイクの種類と録音方法の基本を学ぶ	
	6	照明技術	写真とは異なる動画のライティングを学ぶ	
	7	プロモーション動画 (PV、広告)	企画①：どんなプロモーション（広告）動画を作りたいのかを決める	
	8		企画②：実際に企画書を書いてみる	
	9		構成①：動画の内容（ストーリー）を組み立てる	
	10		構成②：撮影台本または画コンテを作成し課題として提出する	
	11		撮影①：台本に沿って撮影する（スタジオや学内、近隣にて）	
	12		撮影②：撮影の続き（一人での撮影が難しければ協力し合って撮る）	
	13		編集①：Premiere Proの音声処理、カラー調整などを学ぶ	
	14		編集②：編集を仕上げ課題として提出する	
	15		講評：全員の課題を順次視聴して講評する	
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価			
テキスト	SchooSwingにて			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制1年
------	----	----	----	---------

科目名	写真撮影基礎演習/ファインプリント I			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	松井 寛泰			
授業概要	<p>基本的な撮影技術からデジタルプリント技術までを総合的に学ぶ授業です。講義と実技を交えながら一つ一つのステップで知識と技術を身につけていきます。最終的にはあらゆる技術を組み合わせて、自分が表現したい写真が撮れるようになる事を目指します。授業の進捗状況により内容を調整する事もあります。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明/カメラの種類と取り扱いについて	
	2	ピント	被写体に合ったピントモードの選択 拡張子の種類	
	3	露出1	絞り、シャッタースピード、ISO	
	4	露出2	適正露出と露出補正 ヒストグラムの見方 トーンカーブ	
	5	絞りの効果	被写界深度	
	6	シャッター	長時間露光と高速シャッター ルミノグラム	
	7	講義	WB 光源の種類と色温度について RAW現像	
	8	プリント	プリント出力 色空間 100プロファイル カメラプロファイル	
	9	講義	プリントチェック セレクト方法 組み写真	
	10	撮影	街中スナップ/撮影のリズムを掴む テーマを設定してみる	
	11	レンズ色々	焦点距離の違いによる変化/撮像素子サイズとイメージサークル	
	12	講義	プリント出力 プリントチェック 保存方法 後期テーマ設定	
	13	撮影	斜光、逆光の効果を理解する 光の色について	
	14	撮影	フラッシュ撮影1 小型ストロボを使った撮影方法 光の方向	
	15	講評	前期まとめ/3枚組み写真/プリントチェック	
後期	1	講義	前期復習 各自の後期テーマを検討	
	2	撮影	フラッシュ撮影2 小型ストロボ応用編	
	3	撮影	縦位置横位置、正方形、パノラマ 比率による効果	
	4	プリント	プリント出力復習 内容に合った色の表現 組み写真説明	
	5	講義	後期テーマプリントチェック	
	6	構図	水平、垂直、アオリ、平面構成	
	7	撮影	モノクロ撮影 光をテーマに撮影 被写体の形状を意識する	
	8	講義/撮影	フィルター効果 PL ND	
	9	講義	後期テーマプリントチェック テーマに沿った組み写真	
	10	講義	"	
	11	講義	紙の種類 額装と保存、作品の展示方法	
	12	講義/撮影	これまでの授業内容の復習と応用撮影	
	13	講義/撮影	"	
	14	講義	作品提出 組み写真10枚	
	15	講評	作品提出 組み写真10枚	
評価方法	出席回数/課題提出/授業態度			
テキスト				

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部1年留学生
------	----	----	----	---------

科目名	異文化交流演習			
開講期	前後期		単位数	4
講師名	藤谷 啓雄			
授業概要	①講義による説明 ②ペアワーク・グループワーク・ロールプレイ 【到達目標】 ・日本語基礎会話ができる。 ・敬語を用いたビジネス基礎会話ができる。 ・面接で自分の考えを論理的に伝えられる。 ※授業内容は受講者の習熟度や関心に応じて変更する場合がある。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明と進め方	
	2	自己紹介	自分のことを話す練習	
	3	学校	日本語基礎会話Ⅰ 授業場面A	
	4	学校	日本語基礎会話Ⅱ 授業場面B、事務室	
	5	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅲ 授業場面、事務室	
	6	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅳ 日常生活A	
	7	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅴ 日常生活B	
	8	意見・感想	日本語基礎会話Ⅵ 授業場面A	
	9	意見・感想	日本語基礎会話Ⅶ 授業場面B	
	10	意見・感想	日本語基礎会話Ⅷ 日常生活A	
	11	意見・感想	日本語基礎会話Ⅷ 日常生活B	
	12	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅰ	
	13	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅱ	
	14	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅲ 簡単な模擬面接	
	15	総合	まとめ	
後期	1	ガイダンス	前期の復習	
	2	説明	続・日本語基礎会話Ⅰ	
	3	比較	続・日本語基礎会話Ⅱ	
	4	理由説明	続・日本語基礎会話Ⅲ	
	5	提案	続・日本語基礎会話Ⅳ	
	6	問題解決	続・日本語基礎会話Ⅴ	
	7	発表	続・日本語基礎会話Ⅵ	
	8	発表	続・日本語基礎会話Ⅶ	
	9	ガイダンス	就職のための日本語Ⅰ	
	10	敬語	就職のための日本語Ⅱ ビジネス敬語	
	11	自己PR	就職のための日本語Ⅲ 自分の強み・経験を整理	
	12	志望動機	就職のための日本語Ⅳ 志望動機への質問と答え方	
	13	面接応答	就職のための日本語Ⅴ よく聞かれる質問への応答練習	
	14	模擬面接	就職のための日本語Ⅵ	
	15	模擬面接	就職のための日本語Ⅶ	
評価方法	出席、授業態度、発表、課題提出などを総合的に評価する。			
テキスト	第1回の授業において指示する。			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年 フォトアートゼミ
------	----	----	----	---------------------

科目名	近現代アート史			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	鳥原 学			
授業概要	<p>近現代アート史は、主に写真発明以降の美術の諸相を扱う科目です。写真がアートに与えた影響、アートが写真に与えた影響を考えます。その目的は、PA科学生が自分の作品制作について考える多様な視点を育てることです。</p> <p>アート史について理解するには、その作品や作家が生まれた文脈を知ることが必要です。また何より、実際の作品をその目で見なければ、その知識は活かせません。</p> <p>そこでこの授業では指定したテキストを使用しますが、中心となるのは展示会の鑑賞とそのレポートです。講師は展示会を指定しますので、そのレポートを発表してもらいます。</p> <p>指定する展示について調べ、自分の考え方を述べることを通じて、近現代のアート史を身近なものとして感じてもらいます。期末には、これまで鑑賞した展示のなかからテーマを選び、考察を深めたレポート課題を発表してもらいます。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	アート史の基礎	ガイダンスと展示鑑賞 東京国立近代美術館集合	
	2	課題発表	前回の展示についてのレポートの発表とディスカッション	
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	4	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	5	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	6	鑑賞	予定：アーティゾン美術館	
	7	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	8	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	9	鑑賞	予定：東京国立近代美術館	
	10	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	11	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	12	鑑賞	予定：国立新美術館	
	13	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	14	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	15	期末発表	期末課題の発表	
後期	1	鑑賞	予定：東京都写真美術館	
	2	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	3	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	4	鑑賞	予定：東京都現代美術館	
	5	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	6	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	7	鑑賞	未定	
	8	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	9	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	10	鑑賞	未定	
	11	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	12	講義	展示に関連した内容の講義を中心に（テキスト使用）	
	13	鑑賞	未定	
	14	課題発表	レポート発表とディスカッション	
	15	期末発表	期末課題の発表	
評価方法	出席回数とレポートの内容から総合的に判断			
テキスト	デイヴィッド・ホックニー マーティン・ゲイフォード 『絵画の歴史 洞窟壁画からiPadまで〈増補普及版〉』（青幻舎）			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年
------	----	----	----	---------

科目名	スタジオライティング			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	赤坂 トモヒロ			
授業概要	この授業では、基本的なスタジオワークおよび商品撮影のライティングを学びます。志向する真分野に関わらず、スタジオワークや商品撮影の知識・技術を身につけることは大変な強みになり得ます。テザー撮影を行い、スタジオ機材の使用方法や商品撮影、ライティングの基本的な考え方や組み立て方を学びます。同時に、写真業界への入り口となるアシスタントとして必要な知識もあわせて伝えたいと思います。前期は基礎となる知識・スキルを学び、後期はより難度が高く実践的な内容に対応する能力を身につけます。商業フォト志望ではない学生が中心となるため、より実践的・現実的で即現場で役立つ授業内容にし、将来それぞれの分野で「知って良かった」と思えるものにしたいと考えています。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業内容の説明	オリエン。講師の用意した商品の撮影を通して広告写真の基本的な考え方を学ぶ	
	2	講師デモ撮影	缶の切り抜き撮影を通して切り抜き撮影の流れとライティングの考え方を学ぶ	
	3	切り抜きの基礎	身近な商品の撮影を通して商品撮影の流れや機材の扱い方、各ライトやレフ板の役割について学ぶ	
	4	切り抜きの基礎	上記の続き	
	5	切り抜きの基礎	上記の続き	
	6	切り抜き応用	白バック以外の切り抜きやイメージカット的な切り抜きについて	
	7	切り抜き応用	上記の続き	
	8	切り抜き応用	上記の続き	
	9	ライティングの応用①	スマホやPCの撮影を通してスローシンクロ、多重露光を活用した撮影を学ぶ	
	10	ライティングの応用②	ライティングによる時間帯の表現や液体の表現を学ぶ	
	11	ライティングの応用②	上記の続き	
	12	ライティングの応用③	ペットボトルなどの透過物の撮影方法を学ぶ	
	13	ライティングの応用③	上記の続き	
	14	フード撮影	パンやスイーツの撮影を通して基本的な料理撮影を学ぶ	
	15	フード撮影	上記の続き	
後期	1	模写①	講師が提示した作品の模写を行う	
	2	模写①	上記の続き	
	3	模写①	上記の続き	
	4	模写②	講師が提示した作品の模写を行う	
	5	模写②	上記の続き	
	6	模写②	上記の続き	
	7	模写③	講師が提示した作品の模写を行う	
	8	模写③	上記の続き	
	9	模写③	上記の続き	
	10	作品撮り	各自がテーマ・内容を設定し作品撮りを行う	
	11	作品撮り	各自がテーマ・内容を設定し作品撮りを行う	
	12	作品撮り	各自がテーマ・内容を設定し作品撮りを行う	
	13	作品撮り	各自がテーマ・内容を設定し作品撮りを行う	
	14	作品撮り	各自がテーマ・内容を設定し作品撮りを行う	
	15	作品撮り	各自がテーマ・内容を設定し作品撮りを行う	
評価方法	出席状況や授業の取り組み姿勢			
テキスト	無し			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年PAゼミ
------	----	----	----	-------------

科目名	写真表現演習Ⅲ			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	村越 としや			
授業概要	<p>写真がなかった時代、物事は文字や絵にして残しておかなければ、それを覚えている人間がいなくなると同時に消えてしまうものであった。</p> <p>そのようななかで、もともと自然の法則や自然現象から写真が発見され、科学や技術の発展により、現在では多くの人がカメラを持ち歩き、写真や動画で物事を記録し、すぐにSNSやWebなどに保存・保管することができるようになった。</p> <p>その結果、現在も目には見えないデータとして、想像もつかないほど大量の写真がWeb上に存在し、増え続けている。こうした歴史的背景を踏まえたうえで、この授業では、写真が大量生産・大量消費されているからこそ、改めて「写真術」とは何かを考え、明らかにする。</p> <p>前半は写真や印刷の歴史的経緯の一部を体験し、後半は各自の写真作品の制作を中心に行うことを通して、授業を展開する。</p> <p>おおまかな授業計画は以下の通りだが、受講者の関心や進度に応じて柔軟に変更・対応する。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業の流れについて	
	2	カメラという装置を理解する	機械式のカメラを分解し、構造を理解する	
	3		機械式のカメラを分解し、構造を理解する	
	4		機械式のカメラを分解し、構造を理解する	
	5		分解したカメラを使い、カメラ標本を作る	
	6	ピンホールカメラ	製作	
	7		撮影と現像	
	8		撮影と現像	
	9		発表と意見交換	
	10	シルクスクリーン	シルクスクリーン印刷について	
	11		写真の選択	
	12		データ制作	
	13		印刷	
	14		発表と意見交換	
	15	前期まとめ	講評	
後期	1	ガイダンス	制作について	
	2	作品制作実習	制作、発表、意見交換	
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
評価方法	出席、授業内容の理解			
テキスト				

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年 フォトアートゼミ
------	----	----	----	---------------------

科目名	ファインアート演習 I			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	松井 寛泰			
授業概要	<p>この授業は、伝統的な銀塩モノクロプリントを扱う授業です。モノクロフィルムを使用し、撮影から現像、プリントまでの技術を習得するとともに、デジタル・銀塩を問わず、幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的としています。</p> <p>前期では、モノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、写真表現の基礎を学びます。前期・後期ともに、撮影課題に沿った作品制作に取り組みます。</p> <p>授業は主に暗室での実技を中心に行います。また、履修者の習熟度等により、一部進行に変更が生じる場合があります。</p> <p>本授業は、金曜3限に実施する科目です。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	機材説明 プリント手順 オリジナルプリントとは/撮影	
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材	
	3	現像	フィルム現像	
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材	
	5	プリント	コンタクトプリント	
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1	
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2	
	8	現像	フィルム現像	
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き	
	10	プリント	コントラストコントロール	
	11	現像	フィルム現像	
	12	プリント	プリント作業	
	13	プリント	プリント作業	
	14	プリント	プリント作業	
	15	講義	前期のまとめ/前期課題講評	
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて/後期課題について	
	2	現像	フィルム現像	
	3	プリント	プリント作業	
	4	特殊技法	ソラリゼーション	
	5	プリント	プリント作業	
	6	プリント	プリント作業	
	7	講義	スポッティング/サイアナタイプ説明	
	8	講義	サイアナタイプ	
	9	プリント	プリント作業	
	10	プリント	プリント作業	
	11	現像	フィルム現像	
	12	プリント	プリント作業	
	13	プリント	プリント作業	
	14	プリント	プリント作業	
	15	講評	後期課題講評	
評価方法	出席日数、提出物、授業態度			
テキスト				

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年
------	----	----	----	---------

科目名	画像処理 II			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	羽立 孝			
授業概要	<p>Aiも盛んに写真の編集に使われていますが、目で見て近くしながら手作業で行うこととの差は明確に存在しています。 その“違い”を認識すること、また判断できるようになること、またそれらを技術として身につけること、を焦点としていきます 予習及び復習を十分に行い、日々のレタッチに活かしていくようにしましょう</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Photoshopを使えると言えるようになること 			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge	
	2	RAW現像	ヒストグラム、色情報を見る	
	3	テザー撮影	撮影環境を整える (SONY, CANON, NIKON, Fuji, Pana)	
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み (修復ブラシ・コピースタンプ)	
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要	
	6	パス①	パスの概要	
	7	パス②	パスの選択、使い方	
	8	パス③	パスを組み合わせる	
	9	選択範囲	色	
	10	選択範囲	輝度	
	11	マスク	復習	
	12	トーンカーブ①	ブラシの概要及び使い方	
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報	
	14	小テスト	前期内容について	
	15	復習		
後期	1	導入	前期の復習および補足	
	2	スマートオブジェクト	概要	
	3	スマートオブジェクト	変形	
	4	スマートオブジェクト	フィルター	
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ	
	6	スマートオブジェクト	応用	
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし	
	8	描画モード	スクリーン	
	9	描画モード	乗算	
	10	描画モード	乗算	
	11	描画モード	乗算	
	12	描画モード	オーバーレイ	
	13	描画モード	オーバーレイ&カラー	
	14	小テスト	後期内容について	
	15	復習		
評価方法	出席および授業参加率、授業ごとの習熟度、テスト			
テキスト	事前配布			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年 フォトアートゼミ
------	----	----	----	---------------------

科目名	PA基礎ゼミナール			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	宇田川 直寛			
授業概要	<p>作家として生きていくにはいろいろな時期があります。良い時も悪い時もありますが、さまざまな状況や環境で作り続けられることが大事です。それには自分の特性や生活に沿ったやり方や、興味の領域設定が重要になります。慌てて掻き回した引き出しに入っているものを片っ端から利用できるように、一年かけて準備しましょう。年間を通して作品制作を続けながら、自分の制作ルールや対象領域を具体化していきます。授業では次の三つの制作を並行して行います。</p> <p>1. 年間制作（終了展での完成を目指します） 2. 短期制作（課題・実験・スピード制作、コンペ提出） 3. 展示（定期的な発表）</p> <p>また制作の参考として、さまざまなテキストを読み、制作の思考を共有する。</p> <p>授業ルーティーン（時期により比重は変化します）</p> <p>1. 制作物・ヒント共有 2. 制作方法に関する講義・テキスト読解 3. ワーク・スピード制作 4. 制作相談 5. 講評・次回課題設定</p> <p>学生は毎週何らかの制作物、ヒントになりそうなものを持参する。不定期で校外演習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 制作を継続するための個人的な方法を見つける 2. 自分の制作ルールや対象領域を具体化する 3. 短期制作を通して失敗と完成の回数を増やす 4. 展示を通して制作に他者の目を入れる 5. 他者の制作方法を理解し対話できる</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	自己紹介	お互いを知る、話してみる。グループワーク、	
	2	演習 講評	作品の持ち寄り、グループワーク、制作方法の検討	
	3	演習 講評	長期制作の設定 短期制作開始	
	4	演習 講評	長期制作の設定 短期制作	
	5	演習 講評	失敗について 展示してみる	
	6	演習 講評	失敗について 展示してみる	
	7	演習 講評	制作方法の検討	
	8	演習 講評	ゲスト作家に学ぶ	
	9	演習 講評	長期制作 短期制作	
	10	演習 講評	長期制作 短期制作	
	11	演習 講評	失敗について 展示してみる	
	12	演習 講評	失敗について 展示してみる	
	13	演習 講評		
	14	演習 講評	前期の制作物、制作方法を発表	
	15	前期振り返り	前期のワークノートを分析、各自の制作方法の模索	
後期	1	後期目標設定	休み中に作ったものの共有、テキスト制作、グループワーク	
	2	演習 講評	制作方法の検討、長期制作 短期制作	
	3	演習 講評	失敗について 本作り	
	4	演習 講評	失敗について 本作り	
	5	演習 講評	展示してみる	
	6	演習 講評	展示してみる ゲスト作家講評	
	7	演習 講評	制作方法の検討 長期制作の設定 短期制作	
	8	演習 講評	長期制作 短期制作	
	9	演習 講評	長期制作 短期制作	
	10	演習 講評	本作り	
	11	演習 講評	長期制作 短期制作	
	12	演習 講評	作品の見せ方、本と展示の違い	
	13	ゼミ展準備		
	14	ゼミ展準備		
	15	ゼミ内審査		
評価方法	制作物、意欲、試行錯誤			
テキスト	適宜指示			

フォトアートゼミ

2026

区分	必修	対象	I部3年制2年 フォトアートゼミ
----	----	----	---------------------

科目名	メディア表現演習 I			
開講期	前後期	単位数	4	
講師名	須田 拓也			
授業概要	<p>Webでの発信はSNSなどのサービスを利用することでも可能ですが、仕組みや技術を学ぶことで、自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。この授業では、できるだけ写真を用いた表現と関連付けて、Webの仕組みや作り方を学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の表現に活かせるように、Webに関する基本的な知識と技術を身につける。 Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。 			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	導入	コンピュータについて	
	2	PC	ファイルについて	
	3	PC	アプリについて	
	4	PC	ネットワークについて	
	5	デザイン	レイアウトについて	
	6	デザイン	配色について	
	7	デザイン	文字について	
	8	Web	レスポンスということ	
	9	Web	コーディングについて (AIについて)	
	10	Web	ノーコードについて	
	11	課題	出題	
	12	課題	制作	
	13	課題	講評	
	14			
	15			
後期	1	Web	ハイパーテキストとは	
	2	Web	編集について	
	3	Web	プログラミングについて	
	4	動き	アニメーションについて	
	5	動き	トランジションについて	
	6	動き	インタラクションについて	
	7	運用	公開について	
	8	運用	更新について	
	9	運用	CMSについて	
	10	課題	計画	
	11	課題	デザイン	
	12	課題	デザイン	
	13	課題	制作	
	14	課題	制作	
	15	課題	講評	
評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。			
テキスト	必要に応じて配布します。			

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制2年 フォトアートゼミ
------	----	----	----	---------------------

科目名	メディア表現演習Ⅱ				
開講期	前後期	単位数	6		
講師名	小島 真也				
授業概要	<p>表現の手段として、我々が生きる現代は、画像（写真や絵など）だけでなく「映像」も避けて通れない時代になった。 ここで言及するまでもなく、映像やムービーは「動画」と呼ばれ、日常的にあふれている。では、この動画をどのように「表現」に取り入れていけばよいのだろうか。 写真や絵画、文章、さらには歌唱や演劇においても、基本的な知識や技術、方法を学んでいなければ「形」にはならない。 つまり、表現には必ず何かしらの「手段」が必要となる。 映像（動画）を仕上げ、「形」を与える本講座が、表現を広げる一助となれば幸いである。</p>				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概論	映像基礎知識+映像制作ワークフロー+DaVinci Resolveについて		
	2	映像編集	DaVinci Resolveの基本		
	3		「エディット」用素材の作成：準備		
	4		「エディット」用素材の作成：撮影		
	5		DaVinci Resolve「エディット」演習（1）		
	6		DaVinci Resolve「エディット」演習（2）		
	7		カット編集とは？（モンタージュ理論、アクションリフティングなど）		
	8		カット編集用素材の作成：準備		
	9		カット編集用素材の作成：撮影		
	10		カット編集の演習		
	11		映像編集とは？（イマジナリーライン、20%&30度、クロス編集）		
	12		編集理論を活かした撮影		
	13		編集理論の編集演習		
	14		カラー グレーディング	「カラー」用素材の作成：準備（Log、Raw）	
	15			「カラー」用素材の作成：撮影	
後期	1	カラー グレーディング	「カラー」プライマリーの演習（1）		
	2		「カラー」プライマリーの演習（2）		
	3		「カラー」セカンダリーの演習（1）		
	4		「カラー」セカンダリーの演習（2）		
	5		「カラー」セカンダリーの演習（3）		
	6	取材インタビュー	企画&準備		
	7		撮影		
	8		編集		
	9		講評		
	10	ワンカットCM	企画&構成（1）		
	11		企画&構成（2）		
	12		撮影台本（画コンテ）		
	13		撮影		
	14		編集		
	15		講評		
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価				
テキスト	SchooSwingにて				

フォトアートゼミ

2026

区分	必修	対象	I部3年制3年 フォトアートゼミ
----	----	----	---------------------

科目名	写真読解		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	坂口トモユキ		
授業概要	<p>受講生各自の作品と関係性の深い他の作家や作品、写真評論などの書籍・文献をリサーチし、レビューを行う。受講生各自の卒業制作において、作品コンセプトや技法などの理論をより深く理解し、作品制作に必要とされる理論的体系について理解を深めることを目的とする。</p> <p>各自でリサーチした内容を発表し、最終成果物としてレポートを研究冊子にまとめる。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエン	オリエンテーション 講師 / 受講生 作品紹介
	2	自由テーマ研究	各自が興味のあるジャンル・評論書籍等について
	3		作家作品・ジャンル・技術技法・評論書籍リサーチとまとめ
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		中間発表会
	9	研究冊子制作	作家レポート 原稿作成
	10		
	11		
	12		作家研究冊子 編集制作 (コピー本)
	13		
	14		
	15		最終発表
後期	1	後期課題説明	各自作品進捗・参考作家
	2	作家研究	各自作品に関連した美術作家・写真作家・クリエイター研究
	3		作家リサーチと中間報告
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		中間発表会
	9	研究冊子制作	作家レポート 原稿作成
	10		
	11		
	12		作家研究冊子 編集制作 (コピー本)
	13		
	14		
	15		最終発表
評価方法	課題評価点50点、授業姿勢評価点50点として合わせて評価。前期・後期共に最終課題の提出を必須とし、未提出の場合は不合格とする。		
テキスト	テキストは、必要に応じて随時配付		

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	1部3年制3年 フォトアートゼミ
------	----	----	----	---------------------

科目名	ファインアート演習Ⅱ			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	鈴木 のぞみ			
授業概要	<p>本授業は写真を単なる記録媒体としてではなく、イメージ生成の根源的な行為として再考する場である。影・痕跡・水鏡といった原初のイメージの考察から始まり、暗室技法や物質的実験を通して、指標的なメディウムとしての写真の生成原理を身体的に理解する。後期ではゼミ展を実践的に運営し、作家としての総合的な作品構成を行う視点を育成する。授業全体を通して、卒業後の作家活動や進学、就職を見据えた表現力・企画力・発信力の育成を目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真メディウムの特性と歴史的背景を理解できる。 ・自身の制作を歴史的文脈の中で位置づけられる。 ・作品の意図を言語化し、プレゼンテーションできる。 ・展示空間を含めた総合的作品構成ができる。 			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	講師の作品紹介 各自の自己紹介プレゼン	
	2	イメージの起源	イメージの起源について 影・痕跡・水鏡	
	3	メディウム	メディウムの特性を知る	
	4	近代美術史	近代美術史について外観する	
	5	現代美術史	現代美術史について外観する	
	6	映像作品	映像作品の鑑賞	
	7	作品検討	各自の作品検討	
	8	型取り	型取り作品の紹介と制作	
	9	フロッタージュ	フロッタージュ作品の紹介と制作	
	10	コラージュ	コラージュ作品の紹介と制作	
	11	ピンホールカメラ	ピンホールカメラによる作品の紹介とピンホールカメラ制作	
	12	ピンホールカメラ	多様な穴のピンホールカメラによる制作（暗室）	
	13	フォトグラム	フォトグラム作品の紹介と制作（暗室）	
	14	シルエット	シルエット作品の紹介と制作（暗室）	
	15	作品検討	後期に向けて作品検討	
後期	1	ガイダンス	展覧会の作り方についてガイダンス	
	2	展覧会鑑賞	展覧会鑑賞	
	3	展覧会概要	バーチャル展覧会の概要の決定	
	4	展覧会広報	DMデザイン、フライヤーデザイン	
	5	助成金や公募	各種助成金などの応募について	
	6	インスタレーション	インスタレーションについて外観する	
	7	作品検討	各自の作品検討	
	8	写真集	各自おすすめの写真集について作家研究とプレゼン	
	9	ポートフォリオ	ポートフォリオの制作	
	10	ポートフォリオ	ポートフォリオの制作	
	11	ステートメント	ステートメントのプレゼンと推敲	
	12	タイトル	タイトルの歴史を踏まえて各自のタイトルを推敲	
	13	展示方法	様々な展示方法の紹介	
	14	展示方法	各自の作品に合った展示方法を検討	
	15	期末作品検討	期末作品審査	
評価方法	授業に対する積極性、卒展や課題に対する取り組み、作品の完成度から総合的に評価。			
テキスト	授業内で適宜指示			

フォトアートゼミ

2026

区分	必修	対象	I部3年制3年生
----	----	----	----------

科目名	画像処理Ⅲ		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	豊田 直之		
授業概要	<p>本科目では、卒業して実際の現場でも即戦力として使えるテクニックを学びます。現場で必要なのはPhotoshop (PS) だけではなく。社会に出てからありとあらゆる場面で必要なのはプレゼンテーション。そのためには、Illustrator (AI) やInDesign (ID)、PowerPointやKeynoteなども最小限覚えておく必要のあることを学びます。また、動画やドローン撮影などについても学びます。テーマごとに課題を出し、それを制作することによって複合的に使われるテクニックを修得します。後期では、プレゼンテーションを目的としたいくつかの制作課題を出します。それを制作しながらテクニックを熟成させます。動画についても制作実習します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	解説	授業内容説明。PSによる簡単な塗り絵作業。
	2	実習	PSによる高度な塗り絵作業。(PSの基本を理解します)
	3		用紙の使い分けて、自分の作品を表現する
	4		思い通りのプリント出力をするためのカラーマネージメント
	5	実習	ドローン飛行実習 @鎌倉・由比ヶ浜
	6		
	7	実習	AIによるマイ写真展のポスター作り
	8		AIによるマイ写真展のポスター作り
	9		AIによるマイ写真展のポスター出力
	10	解説	画像の納品方法とその注意点。解像度、ファイルサイズなどデジタルの基本
	11	解説・実習	レイヤーマスク、ごみ消し、合成など
	12	実習	AIまたはIDによるマイ写真集作り
	13		AIまたはIDによるマイ写真集作り
	14		AIまたはIDによるマイ写真集作り
	15		マイ写真集出力
後期	1	解説	今後の仕事の動向と動画制作の必要性。スライドショーおよび動画制作について
	2	実習	ドローン撮影実習 @鎌倉・由比ヶ浜
	3		
	4		自分の作品をスライドショーにする
	5	自分の作品をスライドショーにする	
	6	自分の作品をスライドショーにする	
	7	自分の作品をスライドショーにする	
	8	実習	スライドショーによるプレゼンテーション
	9		スライドショーによるプレゼンテーション
	10	実習	ショートムービー作成
	11		ショートムービー作成
	12		ショートムービー作成
	13		ショートムービー作成
	14		ショートムービー発表会
	15		ショートムービー発表会
評価方法	出席回数、授業態度		
テキスト	授業内配布プリント、他		

フォトアートゼミ

2026

区分	必修	対象	I部3年制3年 フォトアートゼミ
----	----	----	---------------------

科目名	フォトアートゼミナール		
開講期	前後期	単位数	12
講師名	濱田 祐史		
授業概要	<p>展覧会、出版などで発表することを目的とし、写真を用いたコミュニケーションの可能性をありとあらゆる方法で対話し探る。写真、美術の技術と歴史を可能な限り学び、忘れて“自分の作品”を制作し、楽しむことを目的とする。定期的にそれぞれの個性に基づき、作品の制作状況を見て必要なものごとを対話していく。主にディスカッション形式で知を共有すること。写真、映画、音楽、絵画、漫画、書籍、画像など、自身の趣味の中から自由に選び、触れ、心を動かされたものをひとつは毎月発表する。</p> <p>不定期で特殊技術研究、印刷研究をする可能性がある。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	写真は魔法 自己紹介、個人面談
	2	インタビュー	2人か3人で聞き手、答え手でインタビューし文字に起こす
	3	美術鑑賞	美術鑑賞 (校外演習)
	4	写真集研究	印刷物について 写真集について (ゲスト 書店員) (校外演習)
	5	暗室研究	感光物質について カラープリント実験
	6	デジタル	紙の上の世界 インクジェットプリントについての実験
	7	展示	グループ展の企画立案、準備
	8	展示	ゼミグループ展
	9	写真集研究	クラブイックデザイナーの講義 (ゲスト クラブイックデザイナー)
	10	講義	作品途中経過 (ダミーブック制作、ポートフォリオ制作)
	11	合宿	撮影、編集、プリント (校外演習)
	12	合宿	撮影、編集、プリント (校外演習)
	13	合宿	撮影、編集、プリント (ゲスト予定) (校外演習)
	14	合宿	撮影、編集、プリント、ゼミグループ展 (校外演習)
	15	講義	後期に向けて 目標とまとめ
後期	1	講義	見るということについて
	2	制作	ダミーブック制作、ポートフォリオ制作
	3	制作	ダミーブック制作、ポートフォリオ制作
	4	講義	フアッションデザイナーの講義 (ゲスト フアッションデザイナー)
	5	美術鑑賞	美術鑑賞
	6	印刷物研究	印刷物について 写真集について (ゲスト書店員)
	7	制作	制作物についてディスカッション
	8	美術鑑賞	美術館鑑賞 (ゲスト 美術館キュレーター) (校外演習)
	9	制作	制作物についてディスカッション
	10	美術鑑賞	美術鑑賞 (校外演習)
	11	制作	制作物についてディスカッション
	12	制作	卒業制作
	13	制作	卒業制作
	14	制作	卒業制作
	15	制作	卒業制作
評価方法	作品と熱意		
テキスト	「写真講義」ルイジ・ギッリ 「風姿花伝」(花伝書)世阿弥		

フォトアートゼミ

2026	区分	必修	対象	I部3年制3年 フォトアートゼミ
科目名	フォトプレゼンテーション演習Ⅱ			
開講期	前後期	単位数	6	
講師名	篠原 俊之			
授業概要	<p>学生自身が進めている写真を中心に据えた創作活動・表現行為について、どのように社会と接点を持つのか、どのようにして自分の活動する場所を獲得していくのかを考えていく時間になりたいと思います。作品の言語化のみならず、レビューを想定したプレゼンテーションのトレーニングを行っていきます。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業の説明、準備するもの、心構えなど	
	2	講義	プレゼンテーションの目的についてどのような方法が考えられるのか、リサーチしてみます。	
	3			
	4	講義	SNS対策について	
	5			
	6	講評	ショート動画のプレゼン	
	7			
	8	実習	言語化のトレーニング	
	9			
	10	実習	日本語でプレゼン動画を作る	
	11			
	12	講評	プレゼン動画 共有	
	13			
	14	講義	素材研究 フィールドワーク	
	15	講義	技法研究 プリントビューイング	
後期	1	ガイダンス	後期の授業の進め方について	
	2	講義	夏休み中にお願いした課題の講評を行います。	
	3			
	4	講義と実習	プレゼン資料のまとめ方	
	5			
	6	実習	編集のコツを覚える	
	7			
	8	講評	完成した資料の共有	
	9			
	10	講義	展示方法を拡張する（額装や、パネル加工を先鋭化してみる）	
	11			
	12	実習	ギャラリーツアー 額装の実践を見る	
	13			
	14	ビューイング	ものとしての作品の価値について、講師所蔵のコレクションをビューイングします。ファインアートフォトの現在について、みなさんが夢を持てる話をします。	
	15			
評価方法	出席 課題提出 授業への参加態度			
テキスト	都度説明します			

フォトアートゼミ

2026

区分	必修	対象	I部3年制3年生
----	----	----	----------

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	<p>卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。</p> <p>また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	キャリアのプランニングとは(仕事の種類を知ろう)フォローアップシートの提出確認
	2	キャリア研究	キャリア①
	3	キャリア研究	キャリア②
	4	キャリア研究	キャリア③
	5	卒業研究	卒業作品展とは、作品を展示する、ということとは
	6	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	7	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	8	企業研究	企業説明会①
	9	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	10	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	11	企業研究	企業説明会②
	12	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	13	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	14	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	15	キャリア研究	前期のまとめ
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ
評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価		
テキスト	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。		

I 部2年制

2026	区分	必修	対象	I 部1年留学生
科目名	異文化交流演習			
開講期	前後期		単位数	4
講師名	藤谷 啓雄			
授業概要	①講義による説明 ②ペアワーク・グループワーク・ロールプレイ 【到達目標】 ・日本語基礎会話ができる。 ・敬語を用いたビジネス基礎会話ができる。 ・面接で自分の考えを論理的に伝えられる。 ※授業内容は受講者の習熟度や関心に応じて変更する場合がある。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明と進め方	
	2	自己紹介	自分のことを話す練習	
	3	学校	日本語基礎会話Ⅰ 授業場面A	
	4	学校	日本語基礎会話Ⅱ 授業場面B、事務室	
	5	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅲ 授業場面、事務室	
	6	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅳ 日常生活A	
	7	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅴ 日常生活B	
	8	意見・感想	日本語基礎会話Ⅵ 授業場面A	
	9	意見・感想	日本語基礎会話Ⅶ 授業場面B	
	10	意見・感想	日本語基礎会話Ⅷ 日常生活A	
	11	意見・感想	日本語基礎会話Ⅷ 日常生活B	
	12	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅰ	
	13	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅱ	
	14	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅲ 簡単な模擬面接	
	15	総合	まとめ	
後期	1	ガイダンス	前期の復習	
	2	説明	続・日本語基礎会話Ⅰ	
	3	比較	続・日本語基礎会話Ⅱ	
	4	理由説明	続・日本語基礎会話Ⅲ	
	5	提案	続・日本語基礎会話Ⅳ	
	6	問題解決	続・日本語基礎会話Ⅴ	
	7	発表	続・日本語基礎会話Ⅵ	
	8	発表	続・日本語基礎会話Ⅶ	
	9	ガイダンス	就職のための日本語Ⅰ	
	10	敬語	就職のための日本語Ⅱ ビジネス敬語	
	11	自己PR	就職のための日本語Ⅲ 自分の強み・経験を整理	
	12	志望動機	就職のための日本語Ⅳ 志望動機への質問と答え方	
	13	面接応答	就職のための日本語Ⅴ よく聞かれる質問への応答練習	
	14	模擬面接	就職のための日本語Ⅵ	
	15	模擬面接	就職のための日本語Ⅶ	
評価方法	出席、授業態度、発表、課題提出などを総合的に評価する。			
テキスト	第1回の授業において指示する。			

2026

2026 科目ガイド

《選択科目》

 日本写真芸術専門学校

2026

区分

選択

対象

I部全学生

科目名	Web表現演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	須田 拓也		
授業概要	<p>Webでの発信はSNSなどのサービスを利用することでも可能ですが、仕組みや技術を学ぶことで、自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。この授業では、できるだけ写真を用いた表現と関連付けて、Webの仕組みや作り方を学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の表現に活かせるように、Webに関する基本的な知識と技術を身につける。 Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	導入	コンピュータについて
	2	PC	ファイルについて
	3	PC	アプリについて
	4	PC	ネットワークについて
	5	デザイン	レイアウトについて
	6	デザイン	配色について
	7	デザイン	文字について
	8	Web	レスポンスということ
	9	Web	コーディングについて (AIについて)
	10	Web	ノーコードについて
	11	課題	出題
	12	課題	制作
	13	課題	講評
	14		
	15		
後期	1	Web	ハイパーテキストとは
	2	Web	編集について
	3	Web	プログラミングについて
	4	動き	アニメーションについて
	5	動き	トランジションについて
	6	動き	インタラクションについて
	7	運用	公開について
	8	運用	更新について
	9	運用	CMSについて
	10	課題	計画
	11	課題	デザイン
	12	課題	デザイン
	13	課題	制作
	14	課題	制作
	15	課題	講評
評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。		
テキスト	必要に応じて配布します。		

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	マガジンメイキング		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	岡崎 裕美		
授業概要	写真家にとって身近な媒体のひとつである雑誌を含む紙媒体の制作体験を通して、写真と印刷物の関係や編集などについて学びます。前期は雑誌や編集の基本的な知識を学び、それぞれのテーマに沿って、写真をセレクトし誌面を構成します。後期はグループワークのスタイルで雑誌を制作します。前期で学んだことを踏まえ、グループで協力しあってオリジナルの雑誌を企画し、一冊の雑誌を完成させます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	授業説明、マスメディアとは
	2	講義	マスメディアについて、雑誌の特徴（他のメディアとの比較）、雑誌制作の雑誌の流れと基本用語
	3	講義	雑誌の特徴2、出版社が制作するもの
	4	実習・講義	商業施設のリーフレット企画（個人課題）、発表
	5	実習	グループディスカッション、企画決定。台割作成
	6	実習・講義	制作する（素材を集め、レイアウトする） データの扱いについて、フォントについて
	7	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成） レイアウトの基礎
	8	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成） レイアウトの基礎②
	9	実習	制作 プレゼンテーションと講評
	10	実習・講義	雑誌の基本設計 雑誌制作①-1 説明とグループ分け
	11	実習	雑誌制作①-2 グループ内で編集会議、台割作成 雑誌制作の流れと基本用語②
	12	実習・講義	雑誌制作①-3 制作 誌面の構成について
	13	実習	雑誌制作①-4 制作
	14		
	15		
後期	1	実習	雑誌制作①-5 制作
	2	実習・講義	雑誌制作①-6 制作 データ提出
	3	実習・講義	雑誌制作①-7 プレゼンテーションと講評 (制作物を踏まえて) レイアウト基礎③、レポート提出
	4	実習・講義	雑誌制作②-1 グループ分け、全体の編集会議（企画、台割） テキストについて
	5	実習・講義	雑誌制作②-3 制作 段組について
	6	実習・講義	雑誌制作②-4 制作
	7	実習	雑誌制作②-5 制作、編集会議
	8	実習・講義	雑誌制作②-6 制作 適切な画像データ
	9	実習・講義	雑誌制作②-7 制作 テキストについて②
	10	実習	雑誌制作②-8 制作
	11	実習	雑誌制作②-9 制作
	12	実習	雑誌制作②-10 制作
	13	実習	雑誌制作②-11 制作
	14	実習	雑誌制作②-12 制作、印刷、製本
	15	実習	雑誌制作②-13 最終プレゼンテーションと講評
評価方法	出席率、積極性などから総合的に評価します。最終的な提出物の出来だけでなくプロセスを重視します。		
テキスト			

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	文章表現演習 I		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	山岸 宏之		
授業概要	<p>写真（ビジュアル）と言葉（文章）の関係性について考え、言葉が写真のコミュニケーション力を高めたり、写真という表現のフィールドを広げたりすることを理解し、さまざまなテーマについて演習を行います。</p> <p>書くことは考えること、自分と向き合うこと、そしてさまざまな視点からモノ・コト・ヒトを考察することでもあります。</p> <p>本授業では、「どう書くか（どれだけ上手く書くか）」よりも、「何を伝えたいか」を自分の言葉で書くことを目標とします。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	授業の方針説明/写真と言葉の関係について
	2	演習	「自分と写真」について書いてみる 写真をはじめたきっかけ等
	3	演習	「自分と写真」について書いてみる 書く/提出
	4	演習	「卒業後の希望」について書いてみる 撮りたい写真等
	5	演習	「卒業後の希望」について書いてみる 書く・提出
	6	演習	「写真と広告」ポスターと写真とコピー キャッチフレーズを書く
	7	演習	同上・新聞広告と写真とコピー キャッチフレーズとコピーを書く
	8	演習	「写真と文章(エッセイ)」 写真と合わせて文章を書く
	9	演習	「写真と文章(エッセイ)」 発表/提出
	10	演習	「写真と文章(ルポタージュ)」 取材し文章を書く
	11	演習	「写真と文章(ルポタージュ)」 発表/提出
	12	演習	「写真と文章(私の好きなモノ・コト)」
	13	講評	前期のまとめ
	14		
	15		
後期	1	講義	自分の身近な人や街を写真と言葉で魅力的に表現する事について
	2	演習	身近な人を取材し、魅力的に表現する
	3	演習	身近な人を取材し、魅力的に表現する プレゼン・提出
	4	演習	自分の住んでいる街について書く
	5	演習	自分の住んでいる街について書く プレゼン・提出
	6	演習	自分の写真集のタイトルを考える
	7	演習	自分の写真集のタイトルを考える プレゼン・提出
	8	演習	自分の写真展のタイトルを考える
	9	演習	自分の写真展について文章を書く
	10	講義	俳句について
	11	演習	俳句を作る/発表・提出
	12	講義	短歌について
	13	演習	短歌を作る/発表・提出
	14	演習	詩を作る
	15	講評	全体講評
評価方法	課題の提出状況および表現内容を総合的に判断して評価します。また、取り組みのプロセスや姿勢の評価という観点から、出席状況も重視します		
テキスト	授業内配布プリント、関連資料を適宜参照		

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	風景撮影演習				
開講期	前後期		単位数	4	
講師名	秦 達夫				
授業概要	<p>このジャンルは自由にライティングを調整したり被写体とコミュニケーションを取ったりなど状況を撮り手がコントロールすることはできません。故に状況任せの撮影と思われがちですが、季節や天候を読み太陽の動きを観察しライティングやアプローチを考察する能力が必要です。また、絶景を複写するのではなく構図・遠近感をコントロールし独自の視点を創り出す事も重要。その他、写真を取り巻く人間関係はとても重要と考えているので、卒業後支援もしくは仕事仲間となり得る機材メーカーに訪問し交流の場を作ります。6月14日と11月22日に、御岳山で撮影実習を行います。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季、太陽や月の動きに対応しながら撮影する術を習得する 				
授業計画	回数	主題・目的	日程	授業予定	
前期	1	オリエンテーリング	2026/5/8	講師紹介、自己紹介、授業の進め方	
	2	座学	2026/5/15	写真基礎	
	3	-	2026/5/22	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。	
	4	座学&実習	2026/5/29	身近な光を探す	
	5	座学&実習	2026/6/5	フィルター レンズワーク	
	6	座学&実習	2026/6/12	太陽・月について	
	7	座学&実習	2026/6/19	6月14日御岳山撮影実習作品添削	
	8	実習	2026/6/26	夕景撮影 四ツ木駅 夏至	
	9	写真展探訪	2026/7/3	オリジナルプリントを観る	
	10	写真展探訪	2026/7/10	写真の流れを見る	
	11	座学	2026/7/17	星景写真	
	12	-	2026/7/24	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。	
	13	-	2026/9/4	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。	
	14				
	15				
後期	1	座学	2026/10/9	夏休みの課題添削	
	2	座学	2026/10/16	多重撮影 比較明合成	
	3	座学&実習	2026/10/23	花の撮影について	
	4	座学&実習	2026/10/30	タイムラプス	
	5	座学	2026/11/6	紅葉の撮り方	
	6	実習	2026/11/13	代々木公園撮影実習	
	7	作品添削	2026/11/20	代々木公園撮影作品添削	
	8	作品添削	2026/11/27	11月22日御岳山撮影実習添削	
	9	-	2026/12/4	※休講とし、11月22日の御岳山撮影実習に振り替えます。	
	10	-	2026/12/11	※休講とし、11月22日の御岳山撮影実習に振り替えます。	
	11	実習	2026/12/18	夕景撮影 四ツ木駅 冬至	
	12	作品添削	2026/1/8	夕景撮影 作品添削	
	13	添削	2026/1/15	冬休みの課題	
	14	座学	2026/1/22	冬の装備	
	15	座学	2026/1/29	1年のまとめ	
評価方法	出席、提出物にて評価します。				
テキスト					

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	フォトアート演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	村越 としや		
授業概要	<p>インターネットで簡単に回答を得ることができるようになり、「考える」ということが疎かになっているように感じます。そもそも「考える」というのは非常に困難な作業であり、インターネットの普及によって効率的に素早く回答を得られることは、多くの人にとって有益なことでしょう。</p> <p>しかし、そこで得た回答は、本当に知識や経験として自分自身に定着したと言えるのでしょうか。本授業では、考えることの基礎を作り上げること、長く取り組めるテーマを見つけること、それをどのように継続していくかを軸に進めていきます。</p> <p>写真を撮ることはもちろん重要ですが、それ以前とそれ以後の思考や行動は、さらに重要であると考えています。インターネット上で大量の写真や情報が消費されていく現代において、消費されない写真とは何か、消費されない言葉とは何かを、一緒に考えていきましょう。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める
	2	発表と講評	
	3	発表と講評	
	4	発表と講評	
	5	発表と講評	
	6	発表と講評	
	7	発表と講評	
	8	発表と講評	
	9	発表と講評	
	10	発表と講評	
	11	発表と講評	
	12	発表と講評	
	13	発表と講評	
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める
	2	発表と講評	
	3	発表と講評	
	4	発表と講評	
	5	発表と講評	
	6	発表と講評	
	7	発表と講評	
	8	発表と講評	
	9	発表と講評	
	10	発表と講評	
	11	発表と講評	
	12	発表と講評	
	13	発表と講評	
	14	発表と講評	
	15	発表と講評	
評価方法	授業の出席回数と、提出課題の評価で総合的に判断します。		
テキスト	特になし		

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	デジタル表現演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	坂口 トモユキ		
授業概要	<p>作品制作において撮影から編集、そして発表のアウトプットにいたるまで、デジタル・ネット社会の利点を活かした課題に取り組みます。 毎日写真をアップするSNS型課題、デジタル合成を前提としたセットアップ・ランドスケープ課題、写真作品としての4K動画課題、そして前期後期ともにオンデマンド印刷とSNSネット通販を想定した写真冊子(zine)を制作します。 ※各課題においてデジタルカメラとAdobe Photoshop、Lightroom Classic、InDesign、Premiere Proの所有が前提となります。</p> <p>【到達目標】 ・各自で自主的にデジタル・ネット環境を活かした自作品の制作・発表形態を発案・実践</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエン	オリエンテーション・課題説明
	2	SNS型写真作品	毎日SNS写真課題 Tumblrセッティングとテスト
	3		毎日SNS写真課題 プレゼン講評
	4		毎日SNS写真課題から新しい組作品を作る(編集制作)
	5		課題発表
	6	デジタル合成	デジタルランドスケープ・演出合成作品研究
	7		各自制作 作品コンセプト・制作プロセス検討
	8		各自制作:撮影・合成編集
	9		各自制作:撮影・合成編集
	10		課題発表
	11	簡易ZINE制作	8p 写真冊子・ZINE型写真作品(SNS型・合成いずれかから)
	12		各自制作:編集・印刷
	13		作品発表と講評
	14		
	15		
後期	1	スライドショー	スライドショーとしての作品 課題説明
	2	動画作品	各自制作
	3		作品発表と講評
	4	写真としての	写真作品として鑑賞される動画作品 課題説明・テスト撮影
	5	動画作品	各自制作 撮影・編集1
	6		各自制作 撮影・編集2
	7		各自制作 編集完成
	8		作品発表と講評
	9	ZINE作品制作	頒布可能なオンデマンド印刷冊子としての写真ZINE 課題説明
	10		編集企画検討(自由作品。フィルム作品も可)
	11		デザイン・編集制作1
	12		デザイン・編集制作2
	13		デザイン・編集制作3 発注とデータ入稿
	14		完成冊子の商品撮影・SNS公開
	15		作品発表と講評
評価方法	提出された課題50%、授業内での実習制作への積極性50%で評価。未提出課題がある場合は不合格とする。また、すべての課題は授業内での新規制作を必須とし、過去の制作物の提出は不合格とする。		
テキスト	テキストは随時配布		

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	ムービー制作演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	小島 真也		
授業概要	<p>ムービーや映像ではなく「動画」と呼ばれ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけでなくムービーの感覚が強く求められています。スチル（写真）とムービー（動画）では、コンテンツ制作において多くの違いがあります。本講座では、タイプの異なる3つのコンテンツを制作することで、ムービー制作への理解を深めることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミュージックビデオ（楽曲は自由） 2. 対談コンテンツ（テレビ番組・YouTube風） 3. コマーシャルムービー（15～30秒） 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概 論	ランダムMV+ワークフロー+ムービー基礎知識+撮影の基本設定
	2	ミュージックビデオ	制作方法とMV構成（メモ、コンテ）
	3	ミュージックビデオ	撮影（スタジオ、自宅など）
	4	ミュージックビデオ	編集基本① - Premiere Proの基本
	5	ミュージックビデオ	編集基本② - MVのセオリー
	6	ミュージックビデオ	編集基本③ - カラーグレーディング
	7	ミュージックビデオ	編集実習
	8	映像技術の基礎	講評
	9	映像技術の基礎	撮影①
	10	映像技術の基礎	撮影②
	11	映像技術の基礎	ライティング①
	12	映像技術の基礎	ライティング②、録音①
	13	映像技術の基礎	録音②
	14		
	15		
後期	1	対談コンテンツ (グループ制作)	対談コンテンツの企画
	2		対談コンテンツの構成①
	3		対談コンテンツの構成②/構成台本作成
	4		収録の事前準備/チーム内の技術確認と役割分担
	5		収録①（スタジオ）
	6	コマーシャルムービー (学内サイネージ発表)	収録②（スタジオ）
	7		編集実習
	8		企画①
	9		企画②
	10		構成①
	11		構成②、台本（画コンテ）作成
	12		撮影/スタジオ他
	13		編集実習（BGMなど）
	14		編集実習（BGMなど）
	15		講評
評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価		
テキスト	SchooSwingにて、レジュメをプレビュー		

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	ダークルーム		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	柳本 史歩		
授業概要	<p>フィルムカメラでの撮影・現像・プリント作業を通して、写真の原理の基礎を理解します。これらの知識はフィルムに限らず、デジタルカメラでの撮影や仕上げにも共通するものです。本授業では、撮影・現像・プリントの工程を繰り返し行い、基礎知識の定着と、フィルムによるプリント作品の仕上げまでの技術習得を目指します。授業は暗室での作業を中心に進めます。</p> <p>なお、授業で使用するフィルムおよび印画紙は各自で準備してください。 ※月曜1限・2限は、いずれも同一のカリキュラムです。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノクロフィルムによる撮影から現像、プリントまでの一連の工程を習得する。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業内容・進行・課題などの説明。
	2	撮影	フィルムカメラでの撮影
	3	現像	フィルム現像の準備と練習
	4	現像	フィルム現像
	5	プリント	プリントの準備とコンタクトプリント
	6	プリント	印画紙プリント
	7	プリント	印画紙プリント
	8	プリント	印画紙プリント
	9	プリント	印画紙プリント
	10	合評	
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	印画紙プリント
	13	プリント	印画紙プリント
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	授業内容・進行・課題などの説明。
	2	撮影	ブローニーフィルムでの撮影
	3	現像	フィルム現像
	4	プリント	印画紙プリント
	5	プリント	印画紙プリント
	6	現像	課題作品づくり
	7	プリント	課題作品づくり
	8	プリント	課題作品づくり
	9	プリント・座学	中間報告
	10	現像	課題作品づくり
	11	プリント	課題作品づくり
	12	プリント	課題作品づくり
	13	現像	課題作品づくり
	14	プリント	課題作品づくり
	15	合評	
評価方法	出席回数・課題提出の有無で評価		
テキスト	授業進行に伴い都度紹介		

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	ダークルーム		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	松井 寛泰		
授業概要	<p>この授業は、伝統的な銀塩モノクロプリントを扱う授業です。モノクロフィルムを使用し、撮影から現像、プリントまでの技術を習得するとともに、デジタル・銀塩を問わず、幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的としています。</p> <p>前期では、モノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、写真表現の基礎を学びます。前期・後期ともに、撮影課題に沿った作品制作に取り組みます。</p> <p>授業は主に暗室での実技を中心に行います。また、履修者の習熟度等により、一部進行に変更が生じる場合があります。</p> <p>本授業は、金曜3限に実施する科目です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	機材説明 プリント手順 オリジナルプリントとは/撮影
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材
	3	現像	フィルム現像
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材
	5	プリント	コンタクトプリント
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2
	8	現像	フィルム現像
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き
	10	プリント	コントラストコントロール
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント
	13	講義	前期のまとめ/前期課題講評
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて/後期課題について
	2	現像	フィルム現像
	3	プリント	プリント作業
	4	特殊技法	ソラリゼーション
	5	プリント	プリント作業
	6	プリント	プリント作業
	7	講義	スポッティング/サイアノタイプ説明
	8	講義	サイアノタイプ
	9	プリント	プリント作業
	10	プリント	プリント作業
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント作業
	13	プリント	プリント作業
	14	プリント	プリント作業
	15	講評	後期課題講評
評価方法	出席日数、提出物、授業態度		
テキスト			

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	写真創作演習Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	フジモリ メグミ		
授業概要	<p>私は17歳とのに、ナン・ゴールドインのドキュメンタリービデオをみたことをきっかけに、写真学校へ進学することになりました。写真をはじめたきっかけは、みんなそれぞれにあると思います。</p> <p>みなさんはなぜ、写真を勉強しようとおもったのでしょうか？ なぜ、写真家・カメラマンになろうとおもったのでしょうか？ この授業ではなぜ？に対する答えを繰り返し出す、という作業をしていきます。その中で、自分自身の写真に対する意見や、クラスメイトの写真に対する意見を言い合っていきます。「うまい」言葉で表現する必要はありませんので、積極的に授業に参加してください。写真の完成度ではなく、写真に向き合う姿勢を身につけることを目指します。そこから、作品を完成させるために必要なことを学んでください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	持参物→これまで撮ってきた写真 自分にとって写真とは？なぜ写真なのか
	2	実習・課題	「学校」
	3	↓	中間講評・撮影
	4	↓	中間講評・撮影
	5	↓	zineにまとめる
	6	実習・課題	「家族」
	7	↓	中間講評・撮影
	8	↓	中間講評・撮影
	9	↓	zineにまとめる
	10	まとめ	発表
	11	実習・課題	「私」をテーマに撮影
	12	↓	中間講評・撮影
	13	↓	中間講評・撮影撮影 夏休みの課題説明
	14		
	15		
後期	1	↓	「私」をテーマに撮影の続き 中間講評・撮影
	2	↓	↓
	3	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる
	4	実習・課題	「ポートレート」
	5	↓	中間講評・撮影
	6	↓	中間講評・撮影
	7	↓	zineやポートフォリオにまとめる
	8	実習・課題	「フェチ」
	9	↓	中間講評・撮影
	10	↓	中間講評・撮影
	11	↓	中間講評・撮影
	12	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる
	13	実習・課題	「自由テーマ」
	14	↓	中間講評・撮影
	15	総括	中間講評・撮影
評価方法	提出頻度、作品内容、出席回数		
テキスト	必要に応じて随時指定します。		

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	写真創作演習			
開講期	前後期	単位数	4	
講師名	田 凱			
授業概要	<p>本授業では、いわゆる正統的な写真表現と、フォトグラム、ルーメンプリント、シルクスクリーン印刷などに代表されるオルタナティブ・プロセスを横断的に扱い、それぞれの課題を交差的に実践します。</p> <p>模写の過程を基礎としながら、写真というメディアの特質を多角的に理解することを目的とします。異なる技法の比較と実践を通して検証し、写真が単なる記録手段にとどまらず、表現媒体としてどのような可能性を持つのかを学びます。</p> <p>最終的には、各自の制作過程と表現研究の成果を統合し、写真と言語、構成、編集を含めて総合的に考察したクリエイティブなアーティストブックとしてまとめ上げることを、本授業の到達目標とします。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	説明	授業の内容説明・個人面談	
	2	講義 ディスカッション 実習	課題① 課題説明	
	3		課題① 経過確認・ブラッシュアップ	
	4		課題① 経過確認・ブラッシュアップ	
	5		課題① 講評	
	6		課題② 課題説明	
	7		課題② 経過確認・ブラッシュアップ	
	8		課題② 経過確認・ブラッシュアップ	
	9		課題② 講評	
	10		課題③ 課題説明	
	11		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ	
	12		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ	
	13		課題③ 講評	
	14			
	15			
後期	1	説明	授業の内容説明 個人面談	
	2	講義 ディスカッション 実習	課題④ 課題説明	
	3		課題④ 経過確認・ブラッシュアップ	
	4		課題④ 経過確認・ブラッシュアップ	
	5		課題④ 講評	
	6		課題⑤ 課題説明	
	7		課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ	
	8		課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ	
	9		課題⑤ 講評	
	10		課題⑥ 課題説明	
	11		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ	
	12		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ	
	13		課題⑥ 講評	
	14		課題⑦ 課題説明	
	15		まとめ	課題⑦ 最終講評
評価方法	出席状況に加え、授業態度、課題への取り組みの継続性、成果物の完成度を総合的に判断して評価します。特に、講師とのコミュニケーションを通して、課題意識や表現方法を更新しながら取り組む姿勢を重視します。評価方法は、平常点40%、課題30%、最終成果30%とします。			
テキスト	『現代写真論——コンテンポラリーアートとしての写真のゆくえ』シャーロット・コットン著、『写真論——距離・他者・歴史』港千尋著、『増補 20世紀写真史』伊藤俊治著、ほか、必要に応じて随時指定します。			

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	フォトクリエイティブ演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	奥 初起		
授業概要	<p>この授業は、みなさんのクリエイティビティを高めながら作品を制作していきます。年間で四つの課題に対してポートフォリオ（自作の作品集）を制作します。お題は決まっていますが、それぞれの被写体や表現方法はディスカッションを行いながら決めていきます。</p> <p>また、様々な表現方法をインプットしていくための実習も行います。カメラマン、フォトグラファー、作家など呼び方はたくさんありますが、共通して必要なことはそれぞれのクリエイティビティです。そして、それを形にしていくための技術と知識だと私は考えています。皆さんが専門的に学んだ（もしくはこれから学ぶ）ことを活かして作品制作を行っていきましょう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の作品を制作し、まとめる力を身につける。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	作品検討	現在までに各自が撮影した写真を持ち寄ったディスカッション/GW課題解説
	2	講義/実習	GW課題講評/課題①解説/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク
	3	講義/講評	様々な表現方法を知る/課題①作品講評
	4	作品講評	課題①作品講評
	5	講評/講義	課題①作品講評/様々な写真集を見る
	6	作品講評	課題①作品講評
	7	実習	大判カメラ、中判デジタルカメラを使った撮影
	8	作品講評	課題①作品講評
	9	作品講評	課題①作品講評
	10	実習	Photoshopレタッチ/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク
	11	作品講評	課題①作品講評
	12	作品講評	課題①ポートフォリオ提出/講評/課題②「旅」説明
	13	作品講評	課題②ポートフォリオ提出、講評、課題③「新しい場所」解説
	14		
	15		
後期	1	講義/講評	様々な写真集を見る/作品講評
	2	実習/講評	フィルターワークの実習/作品講評
	3	作品講評	課題③作品講評
	4	作品講評	課題③作品講評
	5	作品講評	課題③作品講評
	6	作品講評	課題③作品講評
	7	作品講評	課題③作品講評
	8	作品講評	課題③作品講評
	9	作品講評	課題③作品講評、課題④「自由」解説
	10	講評/講義	課題③作品講評
	11	作品講評	課題③ポートフォリオ提出、講評
	12	作品講評	課題④作品講評
	13	作品講評	課題④作品講評
	14	作品講評	課題④作品講評
	15	作品講評	課題④ポートフォリオ提出、講評
評価方法	出席回数、課題の提出頻度、課題内容		
テキスト			

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	ルポルタージュ演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	五十嵐 大二		
授業概要	<p>ルポルタージュとは、自分が現場で実際に見聞きした事実に基づいて報告を行うことであり、主に写真と文章が用いられます。</p> <p>この授業では課題（ルポ）を中心に、①そもそも自分は何に関心があるのか、また問題意識を持つためには何が必要なのか、②取材準備とリサーチ方法、③企画書作成、④現場取材（撮影＋取材ノート）、⑤編集（写真の選択・文章作成）、⑥発表について考えていきます。</p> <p>あわせて、写真学生が苦手としがちな文章表現の基礎も学びます。ブログ発信や、雑誌・新聞・Webメディアなどへの掲載にも挑戦します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	授業内容説明、各自の関心事項を発表、課題（ルポ①～③）の説明
	2	段取り確認	ルポ① テーマ「身近な人の得意料理」 ⇨ 取材準備作業
	3	課題～ルポ①	作品発表・全員で講評
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評
	5	発表・講評	作品発表・全員で講評
	6	課題～ルポ②	ルポ② テーマ「クラスメートが写真を始めたわけ」 ⇨ 取材準備作業
	7	発表・講評	作品発表・全員で講評
	8	発表・講評	作品発表・全員で講評
	9	発表・講評	作品発表・全員で講評
	10	課題～ルポ③	ルポ③ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評
	13	発表・講評	作品発表・全員で講評
	14		
	15		
後期	1	課題～ルポ④	ルポ④ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業
	2	発表・講評	作品発表・全員で講評
	3	発表・講評	作品発表・全員で講評
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評
	5	課題～ルポ⑤	食レポに挑戦（味や香りなど、目に見えないものを文字と写真で表現する）
	6	発表・講評	作品発表・講評
	7	発表・講評	作品発表・講評
	8	文章に親しむ	読書会（好きな本を持ち寄り読書会。ルポルタージュ本、文学作品など自由）
	9	文章に親しむ	ゲストスピーカー
	10	課題～ルポ⑥	ルポ⑥ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評
	13	課題～ルポ⑦	ルポ⑦ テーマ「身近にある社会問題」 ⇨ 取材準備作業
	14	発表・講評	作品発表・全員で講評
	15	発表・講評	作品発表・全員で講評
評価方法	出席、理解度・習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。		
テキスト	授業配布プリント		

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	ビジュアルデザイン		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	泉 美菜子・宮添 浩司		
授業概要	<p>写真表現を他者に伝えるためのメディアとしての印刷表現を通して、ビジュアルデザインの基礎を学びます。</p> <p>前期では、Adobe IllustratorとAdobe InDesignの基本操作を学びながら、書体や構成、編集などの考え方を身につけます。後期では、前期で身につけた知識を活かし、印刷物による自由な自己表現を深め、意見交換を行います。</p> <p>課題制作のために別途撮影が必要となるなど、授業外での制作時間の確保が求められるため、積極的に楽しみながら取り組む姿勢を望みます。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロダクション	講師紹介、イラレとインデザインを触ってみる、機能の説明
	2	名刺を作る	情報を整理する、書体を選ぶ、合成ソフト、レイアウトする
	3	フライヤーを作る:1	紙面設計の考え方について、制作
	4	フライヤーを作る:2	制作、講評
	5	ZINEを作る 1	テーマ=英字と数字 Indesignの使い方、写真の配置と考え方
	6	ZINEを作る 2	制作、出力
	7	ZINEを作る 3	講評
	8	製本を知る	ゲスト
	9	インタビュー誌を作る1	課題説明、編集の基礎、構想を練る、グループディスカッション
	10	インタビュー誌を作る2	インタビューやテーマについての報告会、フォーマットの検討
	11	インタビュー誌を作る3	講評
	12	紙を知る	竹尾見本帖本店見学・レクチャー
	13	講義	デザインワークショップ
	14		
	15		
後期	1	展示を設計する1	自分の個展を想定した展示プランを制作する
	2	展示を設計する2	制作
	3	展示を設計する3	講評
	4	アートzineを作る 1	テーマ=心象風景
	5	印刷を学ぶ	印刷所見学
	6	アートzineを作る 2	講評、意見交換
	7	アートブックを作る1	テーマ: Identity ハードカバーの本を作る
	8	製本を知る	上製本 製本実習
	9	アートブックを作る2	制作
	10	アートブックを作る3	講評
	11	アートポスターを作る1	テーマ: 私の好きな曲 B2サイズのポスターを作る
	12	アートポスターを作る2	制作
	13	実寸を知る	デザインワークショップ
	14	アートポスターを作る3	制作
	15	アートポスターを作る4	講評
評価方法			
テキスト			

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	写真史		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	江澤 勇介		
授業概要	<p>写真史。写真の歴史という意味ですね。写真はひとまず置いて、歴史とは何でしょうか。</p> <p>この授業では受験勉強のように年号と出来事を暗記することを目指すのではなく、写真という発明によって人々の感覚がどう変化してきたのか、その中でどんな表現が生まれ受け入れられてきたのかを学び、現在のリアリティと比較しながら考えていきます。写真の歴史を知ることが、自分がこれから撮る写真に直結するとても重要な学びになります。とりあえずこの授業では写真の歴史をそんな引用元、データベースとして捉えられるように学んでみたいと思います。全体を俯瞰的にというよりは、歴史の中から自分の好きな写真を見つけ、語れるようになることを目的とします。</p> <p>そして講師の私は写真史の専門家ではありません。ですが専門性の外から考える、それ自体が少し写真ぽいんじゃないかなという気もしています。本格的な写真史の授業とは違う流れになると思いますが、写真について楽しみながら学ぶ時間を作れたらと思います。</p> <p>授業内容は進行状況などに応じて随時変更する可能性があります。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	自己紹介、授業の説明
	2	写真の歴史	世界の写真1
	3	写真の歴史	世界の写真2
	4	写真の歴史	世界の写真3
	5	写真の歴史	世界の写真4
	6	写真の歴史	世界の写真5
	7	写真の歴史	世界の写真6
	8	写真の歴史	世界の写真7
	9	写真の歴史	世界の写真8
	10	写真の歴史	世界の写真9
	11	写真の歴史	世界の写真10
	12	写真の歴史	世界の写真11
	13	写真の歴史	世界の写真12
	14		
	15		
後期	1	写真の歴史	日本の写真1
	2	写真の歴史	日本の写真2
	3	写真の歴史	日本の写真3
	4	写真の歴史	日本の写真4
	5	写真の歴史	日本の写真5
	6	写真の歴史	日本の写真6
	7	写真の歴史	日本の写真7
	8	写真の歴史	日本の写真8
	9	写真の歴史	日本の写真9
	10	写真の歴史	日本の写真10
	11	写真の歴史	日本の写真11
	12	写真の歴史	日本の写真12
	13	写真の歴史	自分の好きな写真の系譜1
	14	写真の歴史	自分の好きな写真の系譜2
	15	写真の歴史	まとめ
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。		
テキスト			

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	写真科学		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	船生 望		
授業概要	<p>本授業は、講義によって写真の理論的知識を付与することを主目的としていますが、写真の科学的側面への関心を促すため、撮影の基本技術や画像品質に関わる実習も行います。講義では、デジタル写真システムで使用する撮影機材やコンピュータ、周辺機器、光や色などに関する主要な事項を学習します。後期には、写真の国家資格である写真技能検定の過去問題を演習し、実務的な知識の習得を目指します。実習では、テストチャートなどの撮影を通して、再現性の高い効率的な撮影方法を習得するとともに、画像品質の評価と改善につながる課題に取り組みます。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真技能検定3級取得程度の知識と技術を習得する。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	ガイダンス／写真画像形成のあゆみ
	2	講義	写真のしくみと撮影のプロセス
	3	講義	カメラとレンズ、画像ファイル形式
	4	実習	カメラをまっすぐにかまえる
	5	実習	テストチャートを均等に配置する、均等に照明する
	6	実習	三脚をつかって、テストチャートにカメラを対面させる
	7	講義	露出と照明、人工光源とその対応
	8	実習	画像の明るさをそろえる
	9	実習	手ブレによる画質の低下を見比べる
	10	実習	絞りによるレンズの描写のちがいを見比べる
	11	実習	全身をまっすぐにフレームに収める
	12	講義	前期授業のまとめ
	13	まとめ	筆記テスト
	14		
	15		
後期	1	講義	ガイダンス／写真撮影の主要事項
	2	講義	光と色
	3	講義	コンピュータ・ディスプレイ・プリンタ
	4	実習	シャッターとイメージセンサのシャッタ機能を比較する
	5	実習	ISO感度による画質への影響を確かめる
	6	実習	鮮鋭に撮影できているかを確かめる
	7	実習	撮影画像の解像性を比較する
	8	実習	撮影画像の階調性を比較する
	9	演習	撮影画像の色再現性を比較する
	10	演習	写真技能検定3級の過去問題の演習
	11	演習	写真技能検定3級の過去問題の演習
	12	演習	写真技能検定2級の過去問題の演習
	13	演習	写真技能検定2級の過去問題の演習
	14	講義	後期授業のまとめ
	15	まとめ	筆記テスト
評価方法	筆記テストと課題の提出および平常点		
テキスト	授業内配布プリント		

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	編集出版論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	岡崎 裕美		
授業概要	<p>写真が世に出るひとつの媒体としての印刷物や出版物について、またその中のひとつとしての写真集について学びます。</p> <p>撮り手ではない立場から写真を関わる経験は、伝える力につながります。前期は、メディアにおける写真の役割、写真集の作りについて考えます。後期から、写真をまとめる上での写真と言葉について、写真編集について学び、それまでの内容を自分の作品をまとめる作業に活かしていくという流れで進めます。</p> <p>講義やディスカッションのほかに、実習の授業ではZINE・印刷物制作や写真編集を行います。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	出版メディアの特徴、写真の役割
	2	講義	写真を使って伝える 1
	3	講義	写真を使って伝える 2 (ポスター企画) 発表 編集者の役割
	4	講義/実習	雑誌の特徴について考える 編集者の役割
	5	講義/実習	雑誌の写真について考える
	6	講義/実習	雑誌の記事広告を企画する
	7	講義/実習	制作①-1 雑誌の記事広告制作
	8	実習	制作①-2 雑誌の記事広告制作
	9	実習	制作①-3 雑誌の記事広告制作 テキストの注意点
	10	講義/実習	制作①-4 発表、講評、レポート
	11	講義/実習	印刷の基礎知識 1
	12	講義	雑誌の写真と写真集の写真について
	13	講義/実習	
	14		
	15		
後期	1	実習/講義	ページネーションについて
	2	実習/講義	ページネーションと物語について
	3	実習/講義	写真集のページネーションとレイアウト
	4	実習/講義	写真集の仕様
	5	実習	制作②-1 自分以外の人の写真を編集する
	6	実習	制作②-2 自分以外の人の写真を編集しZINEを企画する
	7	実習/講義	制作②-3 DMとプレスリリース
	8	実習	制作②-4 ZINE制作
	9	実習	制作②-5 ZINE制作
	10	実習/講義	プレゼンテーション (ZINE、DM、プレスリリース)
	11	実習	自分の写真を編集する 1
	12	実習	自分の写真を編集する 2
	13	実習	プレスリリースとDM、ステートメントを作る
	14	講義	プレゼンテーションと講評 (ZINE、DM、プレスリリース、ステートメント)
	15	実習	印刷の基礎知識 2 (印刷博物館見学)
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。		
テキスト			

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	ドキュメンタリー写真論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	江澤 勇介		
授業概要	<p>写真家になるためには、作品を制作しなければなりません。作品を制作するためには、作品と呼べる写真(写真群)が、どのようなものなのかを理解しなければなりません。そのために、この授業では、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に世界の様々な写真集を見てもらいます。</p> <p>前半は、年代を10年ごとに区切り、写真史の中でその時代の特徴をもち、その後に影響を与えた作品を中心に、2010年代まで見ていきます。その中で、写真史的流れとその時代の作品の特徴などを解説していきます。後半の最初の4回は「戦争」を対象にした作品を見ます。5回以降は、国、地域にまとめた写真集を見てもらいます。似たような被写体が、写真家によってテーマや撮り方が異なることを学んでもらいます。後半では、前半のようにまとめた解説はしませんが、作品に対する質問がしたい場合は、授業中に、個別に質問をしてください。授業の進め方は、同じ年代、国の写真集を2回の授業で見てもらいます。その際に、2回目の授業の終わり1時間で、その回の自分の気になった作品を一冊以上選び、その作品の感想文(字数800字以上)を書いて提出してもらいます。成績は、授業ごとに提出された感想文の平均点とします。</p> <p>授業内容は進行状況などに応じて随時変更する可能性があります。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義・読解	<1900年代～1950年代>パブリックな視線からプライベートな視線へ
	2	講義・読解	<1900年代～1950年代>パブリックな視線からプライベートな視線へ
	3	講義・読解	<1900年代～1950年代>パブリックな視線からプライベートな視線へ ①感想文提出
	4	講義・読解	<1960年代>コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち
	5	講義・読解	<1960年代>コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち ②感想文提出
	6	講義・読解	<1970年代>ニュートポグラフィクス、ニューカラー、タイポロジー ③感想文提出
	7	講義・読解	<1980/90年代>コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)、プライベート・フォト
	8	講義・読解	<1980/90年代>コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)
	9	講義・読解	プライベート・フォト④ 感想文提出
	10	講義・読解	<2000年代>ドキュメンタリー写真の現在
	11	講義・読解	<2000年代>ドキュメンタリー写真の現在 ⑤感想文提出
	12	講義・読解	<2010年代>
	13	講義・読解	<2010年代> ⑥感想文提出
	14		
	15		
後期	1	写真の歴史	<戦争>戦場の写真家たち
	2	写真の歴史	<戦争>戦場の写真家たち ①感想文提出
	3	写真の歴史	<戦争>過去の戦争を撮る写真家たち
	4	写真の歴史	<戦争>過去の戦争を撮る写真家たち ②感想文提出
	5	写真の歴史	<日本・東京>
	6	写真の歴史	<日本・東京> ③感想文提出
	7	写真の歴史	<アメリカ>
	8	写真の歴史	<アメリカ> ④感想文提出
	9	写真の歴史	<カリブ・中・南米>
	10	写真の歴史	<カリブ・中・南米> ⑤感想文提出
	11	写真の歴史	<アジア>インドを中心に
	12	写真の歴史	<アジア>インドを中心に ⑥感想文提出
	13	写真の歴史	<アジア>中国を中心に
	14	写真の歴史	<アジア>中国を中心に ⑥感想文提出
	15	写真の歴史	<東ヨーロッパ><PORTRAIT>
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。		
テキスト			

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	英会話		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	ユーリア・スコゴレワ		
授業概要	<p>将来、世界で活躍したいと思いませんか？英語を話せることで、さまざまな可能性が広がります。 このクラスでは、写真業界に必要な表現を学びながら、世界へと視野を広げていきます。 国際的なキャリアを目指す学生にぴったりのこのクラスでは、自信を育てながら、新しいチャンスに挑戦する力を身につけることができます。 楽しく、安心できる環境で、グローバルな未来への一步を踏み出しましょう！</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介、写真撮影で使う英語表現
	2	英語総合	国際的なキャリアに必要な写真祭やコンテストの紹介
	3	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	4	英語総合	屋外実習(訪日外国人旅行者に英語でインタビュー + 写真撮影)
	5	英語総合	実習の発表会
	6	英語総合	実習の発表会
	7	英語総合	撮影プロジェクトプレゼンテーションの練習
	8	英語総合	国際写真コンテストへ英語で応募準備
	9	英語総合	国際写真コンテストへ英語で応募準備
	10	英語総合	屋外実習(訪日外国人旅行者に英語でインタビュー + 写真)
	11	英語総合	実習の発表会
	12	英語総合	実習の発表会
	13	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	14		
	15		
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する
	2	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	3	英語総合	屋外実習(訪日外国人旅行者に英語でインタビュー + 写真撮影)
	4	英語総合	実習の発表会
	5	英語総合	実習の発表会
	6	英語総合	ゲストスピーカー
	7	英語総合	撮影プロジェクトプレゼンテーションの練習
	8	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	9	英語総合	英語で写真・アートドキュメンタリー
	10	英語総合	グループディスカッション
	11	英語総合	外国人モデル撮影、英語で指導練習
	12	英語総合	実習の発表会
	13	英語総合	グループディスカッション
	14	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	15	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
評価方法	習熟度・理解度、授業態度、自助努力		
テキスト	授業配布プリント		

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	メディア論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	関 貴尚		
授業概要	<p>本授業では、「メディア」について考えます。 メディアというと、マスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものですが、情報を伝達する際に空気のようにまとわりつき、切り離すことができない要素もまたメディアです。そのメディアがどのようなものなのかを理解し、それによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのかを考察します。</p> <p>そのため本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど）の視点から読み解きます。 なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を用いて、授業中に質問やコメントを募集する場合があります。 本講義を履修することにより、以下の能力の修得を目指します。 1. メディア特性を理解し、自らの制作に活かす。 2. メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）
	2	講義	ファッションとメディア1
	3	講義	ファッションとメディア2
	4	講義	アイドルとメディア1
	5	講義	アイドルとメディア2
	6	講義	SNSというメディア
	7	講義	戦争とメディア1
	8	講義	戦争とメディア2
	9	講義	メディアと技術革新
	10	講義	死とメディア
	11	講義	映画『ドントルックアップ』から考える
	12	講義	音楽とメディア
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する
	14		
	15		
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）
	2	講義	政治とメディア1
	3	講義	政治とメディア2
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『1984年』から考える
	5	講義	スポーツとメディア1
	6	講義	スポーツとメディア2
	7	講義	ファンとメディア
	8	講義	恋愛とメディア
	9	講義	メディアと情動
	10	講義	アニメとメディア
	11	講義	アートとメディア1
	12	講義	アートとメディア2
	13	講義	差別とメディア
	14	講義	ジェンダーとメディア
	15	授業内課題	メディアに支配されないために
評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。		
テキスト			

2026

区分	選択	対象	I部全学年
----	----	----	-------

科目名	美術造形論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	小林 麻衣子		
授業概要	<p>写真と美術は切り離すことはできません。この授業では、写真表現に役立つと思われる美術的な視点からのものの捉え方を得ることを目指します。写真と美術の歴史を年代に沿って紹介し、様々な作家の取り組みを通して、自己の表現を考えます。また、実際にインスタレーション展示を企画し作り上げる経験もします。様々な角度から写真と美術の理解を深めていきます。とらえがたい現代の多様な表現のなかで「写真とは何か」という問いを、ともに多角的に考察する場とします。（授業内容は状況に応じて変更する可能性もあります）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真と美術の作家や作品、考え方を多面的に知ることで、各自の表現力をより豊かにすることを目指す。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	自己紹介
	2	講義	写真と美術の歴史を知る①（写真の起源から）
	3	講義	写真と美術の歴史を知る②（1930年代～50年代の表現）
	4	講義	写真と美術の歴史を知る③（1930年代～50年代の表現）
	5	講義	写真と美術の歴史を知る④（1950年代～70年代の表現）
	6	講義	写真と美術の歴史を知る⑤（1950年代～70年代の表現）
	7	講義	写真と美術の歴史を知る⑥（1980年代～2000年代の表現）
	8	講義	写真と美術の歴史を知る⑦（1980年代～2000年代の表現）
	9	講義	写真と美術の歴史を知る⑧（2000年代～現代の表現）
	10	講義	読書会（写真を学ぶ上で重要な書籍を知る）
	11	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	12	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	13	講義	まとめ
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	後期の授業の説明
	2	講義	写真を展示から考える①
	3	講義	写真を展示から考える②
	4	講義	写真を展示から考える③
	5	課題制作	インスタレーション展示を想定した作品を考える①
	6	課題制作	インスタレーション展示を想定した作品を考える②
	7	中間講評会	課題について講評、ディスカッション
	8	課題制作	展覧会制作①
	9	課題制作	展覧会制作②
	10	課題展示作業	課題制作②
	11	展示講評会	展示撤去作業、講評会
	12	講義	読書会（写真を学ぶ上で重要な書籍を知る）
	13	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	14	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	15	講義	まとめ
評価方法	授業の出席回数と、提出課題の評価で総合的に判断します。		
テキスト	特になし		

2026

区分

選択

対象

I部全学年

科目名	社会学		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	渡辺 浩平		
授業概要	<p>私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成しています。本授業では、「社会的なもの」をいかに理解できるかを考察します。</p> <p>前半は主に社会学の理論や各論について講義します。後半は、フィールドワークや文章・写真・動画等の制作、ディスカッションなどを通じて、「社会的なもの」を内側から理解するとはどのようなことかを探究します。</p> <p>本授業の目標は、多様な生き方や価値観を内側から理解し、別の生き方の可能性を想像する力を身につけることです。</p> <p>なお、授業計画は受講生の人数や関心等に応じて変更する可能性があります。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	はじめに	社会調査法としてのフィールドワーク口
	2	社会学とは	社会・文化とは
	3	社会学とは	社会学的思考と概念
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論
	7	社会調査法	研究テーマと問題意識
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織
	9	各論	環境と生活
	10	各論	政治と経済
	11	各論	宗教と世界観
	12	まとめ	前期まとめ
	13	テスト	前期テスト
	14		
	15		
後期	1	社会調査法	参与観察：半構造化インタビュー
	2	社会調査法	参与観察：フィールドノート
	3	社会調査法	参与観察：民族誌
	4	社会調査法	フィールドワーク計画
	5	社会調査法	フィールドワーク計画
	6	社会調査法	フィールドワーク計画
	7	社会調査法	フィールドワークの実施
	8	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	9	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	10	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	11	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	12	社会調査法	調査報告
	13	社会調査法	調査報告
	14	まとめ	後期まとめ
	15	テスト	後期テスト
評価方法	前期・後期のテスト、授業内課題、授業への参画度などを総合的に評価します。		
テキスト	詳細は授業内で配布・指示します。		

2026

2026 科目ガイド

《特別科目》

 日本写真芸術専門学校

特別科目

2026

区分	必修	対象	全学年
----	----	----	-----

科目名	特別ワークショップ		
開講期	前後期	単位数	2※
講師名	本校講師・招聘講師		
授業概要	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどをお招きします。オリジナル作品の本人による解説や出席者の作品講評やワークショップなど、学生自身の創作意欲を高めます。		
評価方法	出席		
備考	招聘講師との日程調整が確定次第、メールにて発表します。なお、一部の授業は学外のギャラリー等でも開講		

特別科目

2026	区分	必修	対象	卒業年度生
科目名	卒業作品集			
開講期	後期	単位数	1※	
講師名				
授業概要	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら制作を行い、1冊の作品集としてまとめます。			
評価方法	提出			
備考				